

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図る
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- 以上のような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

(2) 調査の対象

- 小学校第6学年
- 中学校第3学年

(3) 調査内容

◇教科に関する調査（国語，算数・数学）

主として「知識」に関する問題 (A問題)	主として「活用」に関する問題 (B問題)
身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能など	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など
<調査時間> 各教科 小学校 20分 中学校 45分	<調査時間> 各教科 小学校 40分 中学校 45分

◇質問紙調査

児童生徒に対する質問紙調査	学校に対する質問紙調査
学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査 <調査時間> 20分程度	学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

(4) 調査方式 悉皆調査

(5) 調査日時 平成26年4月22日（火）

(6) 鈴鹿市における調査を実施した学校・児童生徒数

	実施校数	実施人数			
		国語A	国語B	算数(数学)A	算数(数学)B
小学校	30校	2,032人	2,033人	2,032人	2,032人
中学校	10校	1,918人	1,922人	1,927人	1,924人

2 調査結果の概要

(1) 鈴鹿市・三重県（公立）・全国（公立）の平均正答率

- 小学校国語 B, 算数 B の平均正答率が, 県平均を上回っている。(表 1)
- 小学校国語 A, 中学校国語 B の平均正答率は県平均と同値である。(表 1) (表 2)
- B 問題の平均正答率が 50% 台と低い。特に中学校国語 B においては, 平均正答率が 50% に達していない。(表 1) (表 2)

表 1 平成 26 年度 平均正答率 (小 6)

小 6	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
鈴鹿市	69.6	53.8	75.7	56.2
三重県 (公立)	69.6	52.5	76.2	56.0
全国 (公立)	72.9	55.5	78.1	58.2

表 2 平成 26 年度 平均正答率 (中 3)

中 3	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
鈴鹿市	76.9	49.0	65.6	57.7
三重県 (公立)	78.0	49.0	67.1	58.3
全国 (公立)	79.4	51.0	67.4	59.8

(2) 平均正答率 経年比較

- 平成 19 年度から平成 26 年度までの平均正答率の変動は, 国や県の動きとほぼ似た動きとなっている。(図 1~図 8)
- 小学校国語 A, 中学校国語 B において, 平成 26 年度初めて県平均と並ぶ。(図 1) (図 6)
- 小学校国語 B, 算数 B の平均正答率が, 平成 26 年度初めて県平均を上回る。(図 2) (図 4)
- 中学校国語 B 以外は, すべて, 昨年度より, 平均正答率が高くなっている。(図 1~図 8)
- どの教科も国の平均正答率に達することはできていない。しかし, 国平均正答率と鈴鹿市の平均正答率の差を見ると, 昨年度までは, 3 ポイント以上下回る科目が目立ったが, 今年度は, 小学校国語 A が 3.3 ポイント下回った以外は, 3 ポイント以内の差となっている。(表 3)
- 小学校では国語 A・B, 算数 A・B 全てにおいて, 昨年よりも全国平均との差を縮めている。
(表 3) (図 9)
- 中学校では, 数学 A・B とともに全国平均との差を縮めている。(表 3) (図 10)

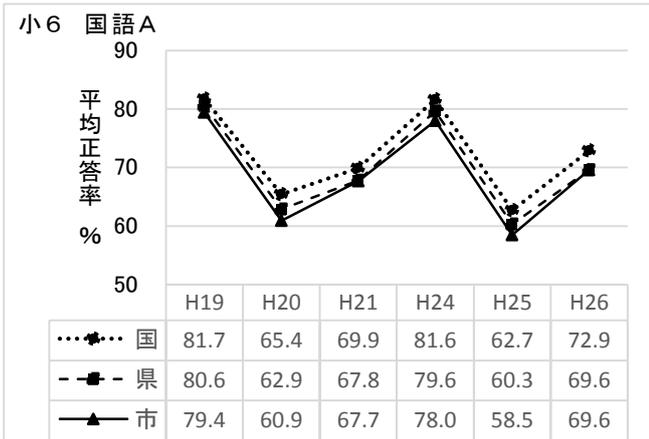


図 1 平均正答率 国・県との経年比較 (小6 国語A)

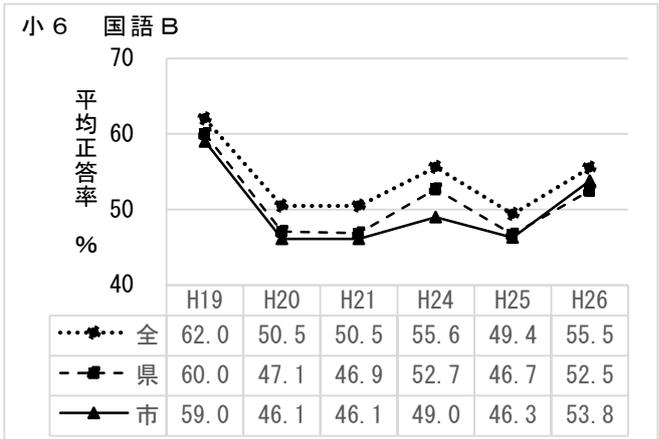


図 2 平均正答率 国・県との経年比較 (小6 国語B)

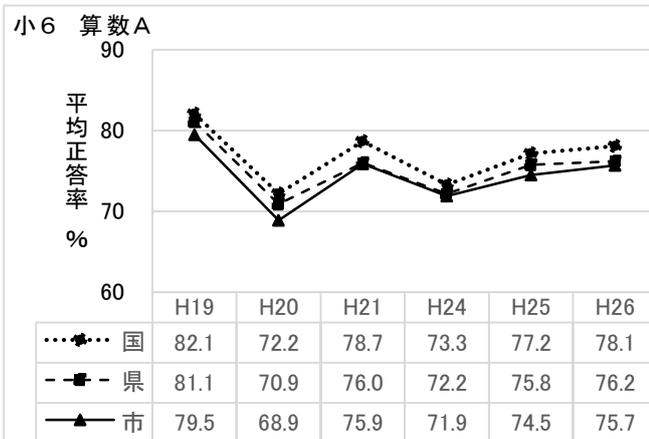


図 3 平均正答率 国・県との経年比較 (小6 算数A)

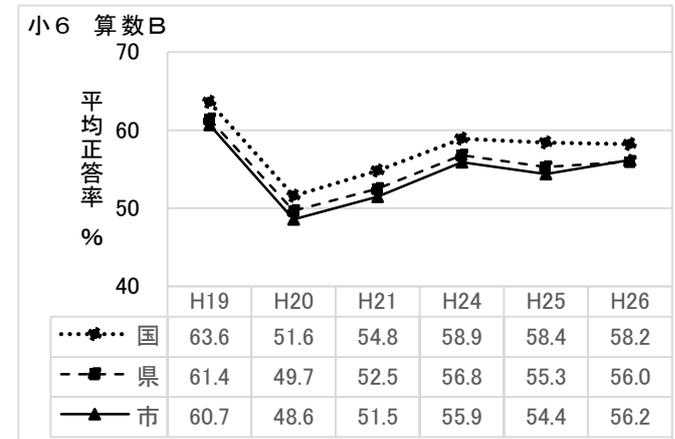


図 4 平均正答率 国・県との経年比較 (小6 算数B)

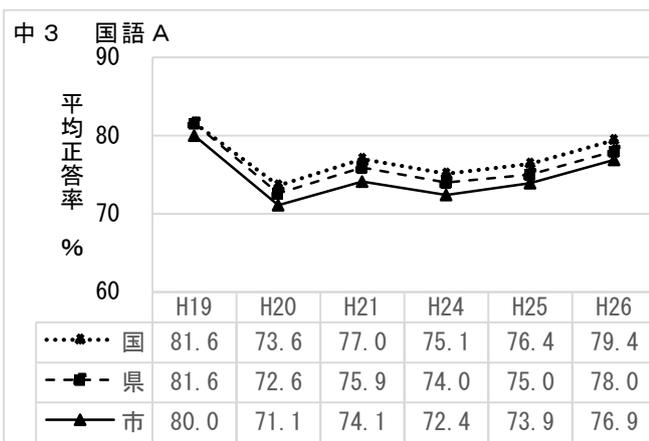


図 5 平均正答率 国・県との経年比較 (中3 国語A)

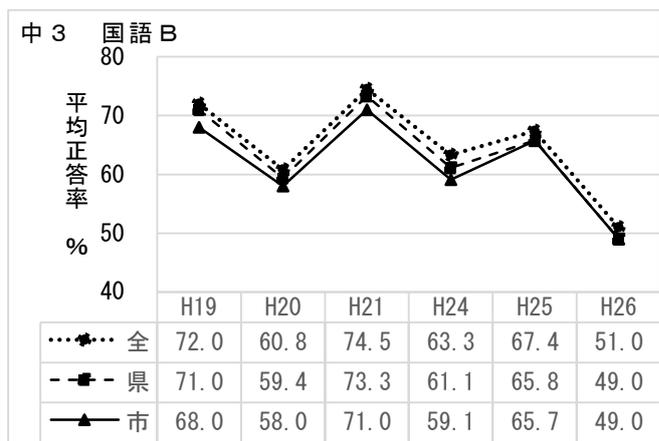


図 6 平均正答率 国・県との経年比較 (中3 国語B)

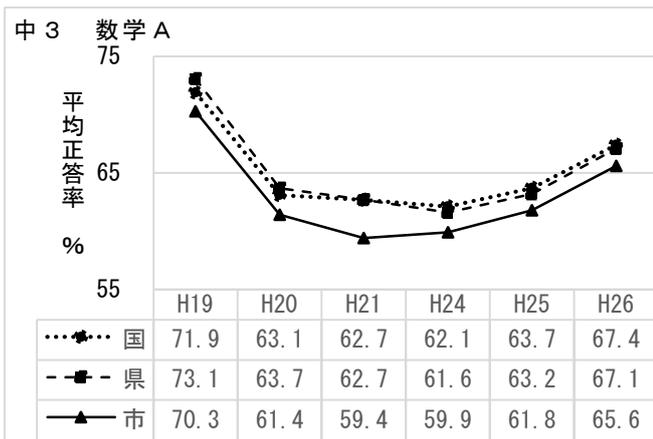


図7 平均正答率 国・県との経年比較 (中3 数学A)

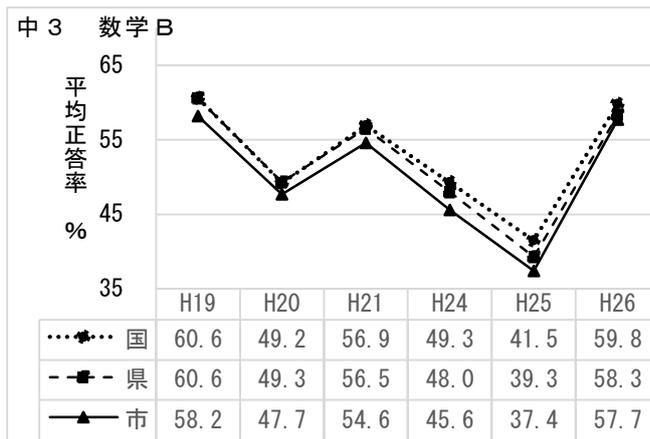


図8 平均正答率 国・県との経年比較 (中3 数学B)

表3 平均正答率の全国との差の変化 (%)

		平成19年度			平成20年度			平成21年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度		
		鈴鹿市	全国(公立)	差															
小国	A	79.4	81.7	-2.3	60.9	65.4	-4.5	67.7	69.9	-2.2	78.0	81.6	-3.6	58.5	62.7	-4.2	69.6	72.9	-3.3
	B	59.0	62.0	-3.0	46.1	50.5	-4.4	46.1	50.5	-4.4	49.0	55.6	-6.6	46.3	49.4	-3.1	53.8	55.5	-1.7
小算	A	79.5	82.1	-2.6	68.9	72.2	-3.3	75.9	78.7	-2.8	71.9	73.3	-1.4	74.5	77.2	-2.7	75.7	78.1	-2.4
	B	60.7	63.6	-2.9	48.6	51.6	-3.0	51.5	54.8	-3.3	55.9	58.9	-3.0	54.4	58.4	-4.0	56.2	58.2	-2.0
中国	A	80.0	81.6	-1.6	71.1	73.6	-2.5	74.1	77.0	-2.9	72.4	75.1	-2.7	73.9	76.4	-2.5	76.9	79.4	-2.5
	B	68.0	72.0	-4.0	58.0	60.8	-2.8	71.0	74.5	-3.5	59.1	63.3	-4.2	65.7	67.4	-1.7	49.0	51.0	-2.0
中数	A	70.3	71.9	-1.6	61.4	63.1	-1.7	59.4	62.7	-3.3	59.9	62.1	-2.2	61.8	63.7	-1.9	65.6	67.4	-1.8
	B	58.2	60.6	-2.4	47.7	49.2	-1.5	54.6	56.9	-2.3	45.6	49.3	-3.7	37.4	41.5	-4.1	57.7	59.8	-2.1

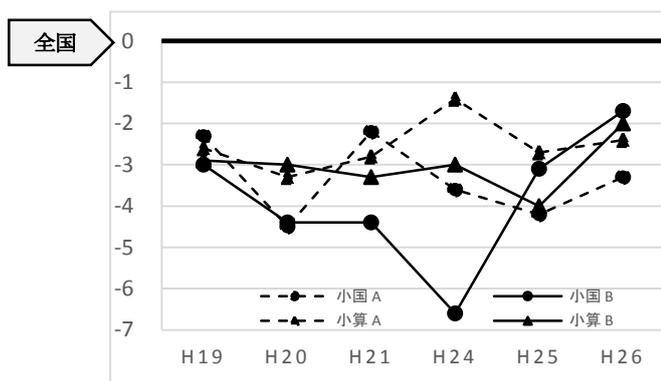


図9 平均正答率の全国との差の変化 (小学校)

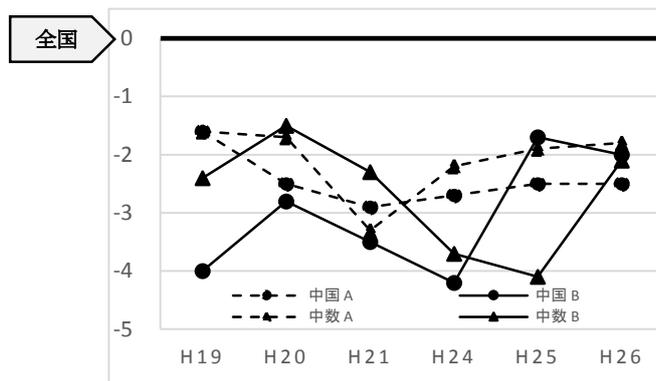


図10 平均正答率の全国との差の変化 (中学校)

(3) 鈴鹿市と全国（公立）の平均無解答率

○これまでの B 問題の記述式問題における平均無解答率は、小学校算数 B 以外は、どれも 20%～30%台の無解答率になることがあったが、今年度は、いずれも平均無解答率が 20%を超えていない。(表 4) (図 11)

○国の平均無解答率と比較すると、いずれも差が縮まっている。特に中学校国語 B については、国の平均無解答率よりも低くなっている。(表 4) (図 12)

表 4 B 問題 記述式問題における平均無解答率 全国との経年比較 (%)

	平成 19 年度			平成 20 年度			平成 21 年度			平成 24 年度			平成 25 年度			平成 26 年度		
	鈴鹿市	全国	差															
小国B 記述式問題	13.7	10.4	3.3	21.8	16.4	5.4	18.7	13.6	5.1	19.6	12.8	6.8	21.0	15.1	5.9	13.6	12.8	0.8
小算B 記述式問題	13.6	10.1	3.5	11.4	8.6	2.8	12.6	9.3	3.3	10.3	7.5	2.8	14.7	10.9	3.8	8.1	7.1	1.0
中国B 記述式問題	12.7	10.7	2.0	24.5	20.2	4.3	8.3	6.4	1.9	14.5	11.9	2.6	7.1	6.5	0.6	9.1	9.3	-0.2
中数B 記述式問題	25.6	22.9	2.7	29.6	27.0	2.6	27.1	22.8	4.3	20.6	18.9	1.7	33.0	29.5	3.5	16.5	16.1	0.4

※平成 24 年度の鈴鹿市の無解答率については、抽出校の小学校 9 校、中学校 7 校の平均無解答率については、数値が低いほどよい

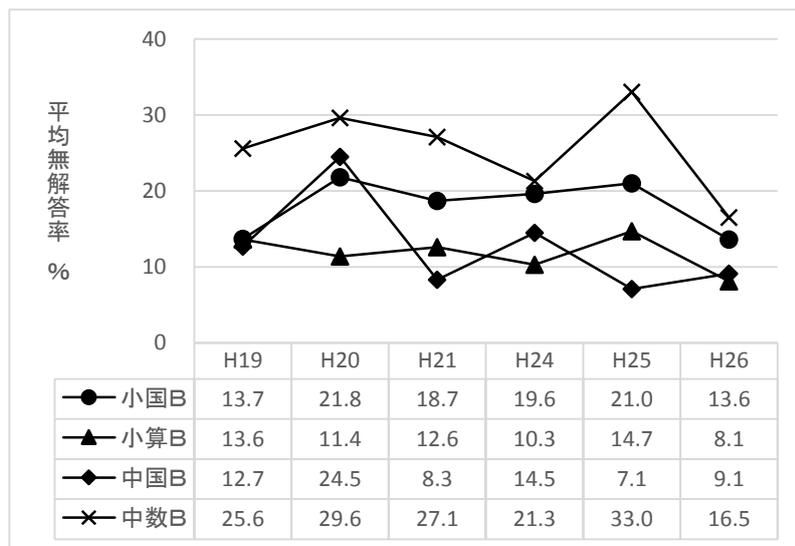


図 11 B 問題における記述式問題の平均無解答率経年変化

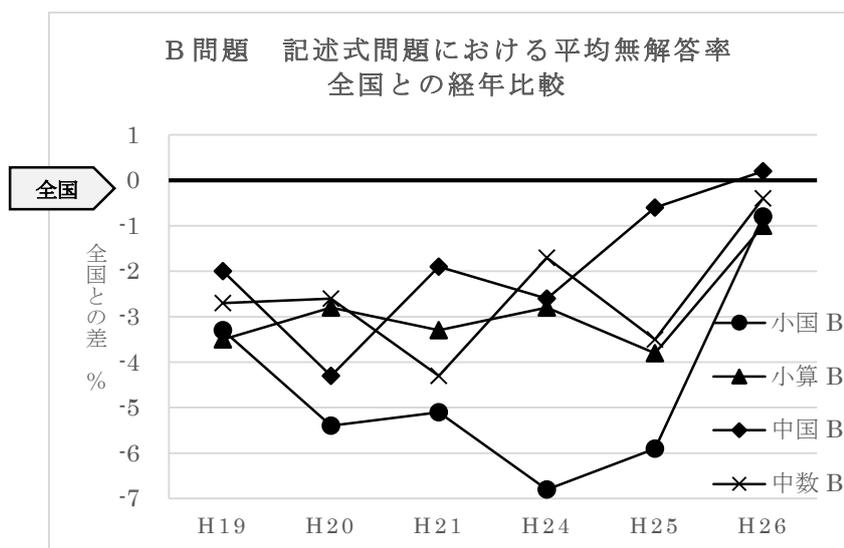


図 12 B問題記述式問題平均無解答率の全国との経年比較

(4) 全国平均・県平均を上回る学校数

- 小学校国語，算数ともにB問題において，国の平均正答率を超えた学校が平成 24 年度から増えてきている。(表 5)
- 小学校国語，算数ともにA問題において，国の平均正答率を越える学校数は昨年に比べ減っているが，県の平均正答率を超える学校数は増えている。(表 5)
- 中学校においては，数学B問題において，国の平均正答率を越えた学校が平成 24 年度から増えてきている。(表 6)

表 5 平均正答率が全国平均・県平均を上回る学校数の経年変化 (小学校) (校)

小学校	国語 A						国語 B						算数 A						算数 B					
	H19	H20	H21	H24	H25	H26	H19	H20	H21	H24	H25	H26	H19	H20	H21	H24	H25	H26	H19	H20	H21	H24	H25	H26
全国を上回る学校数	7	7	11	4	7	5	12	6	6	1	8	9	8	9	10	14	9	8	7	8	11	7	8	9
県を上回る学校数	14	10	14	11	11	16	14	11	15	5	13	18	10	12	18	16	12	13	16	14	14	14	15	13

表 6 平均正答率が全国平均・県平均を上回る学校数の経年変化 (中学校) (校)

中学校	国語 A						国語 B						数学 A						数学 B					
	H19	H20	H21	H24	H25	H26	H19	H20	H21	H24	H25	H26	H19	H20	H21	H24	H25	H26	H19	H20	H21	H24	H25	H26
全国を上回る学校数	4	2	2	3	3	1	1	3	3	2	3	3	3	6	2	3	3	3	2	6	4	1	2	3
県を上回る学校数	4	3	4	3	4	4	3	4	4	2	7	5	2	5	2	4	3	4	2	6	4	3	3	5

(5) 正答数分布

<小学校 6年>

- 昨年と比べ、国語、算数ともに正答数の多い児童数が増えており、分布の山が右寄りになっているが、国の正答数分布と比較すると、高得点を取る児童が少ない。(図 13～図 20)
特に A 問題において、正答数の高いところに位置する児童の割合が、全国の割合と比べ、差が大きくなっている。(図 14) (図 18)
- B 問題において、正答数が半分以下の児童の割合が、全国の割合を上回っている。逆に、正答数が半分以上の児童の割合が、全国の割合を下回っている。(図 15) (図 16)
- B 問題において、平成 25 年度と比較すると、正答数が 0 問、1 問、2 問、3 問といった低い得点の児童の割合が減っている。(図 15) (図 16) (図 19) (図 20)

<中学校 3年>

- 中学校国語 A、中学校数学 A については、昨年と似た分布となっている。
(図 21) (図 22) (図 25) (図 26)
- 中学校国語 B は、平成 25 年度に比べ、正答数の多い層の生徒の割合が低くなり、平成 25 年度は分布の山が右寄りであったものが、左へと移っている。(図 23) (図 24)
- 中学校数学 B は、分布の山が右寄りになり、全国平均と似た分布になり、正答数の少ない生徒の割合が低くなっている。(図 27) (図 28)

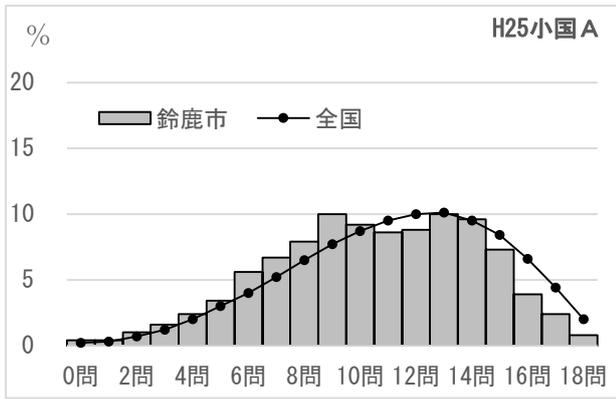


図 13 平成 25 年度 小学校国語 A 正答数分布

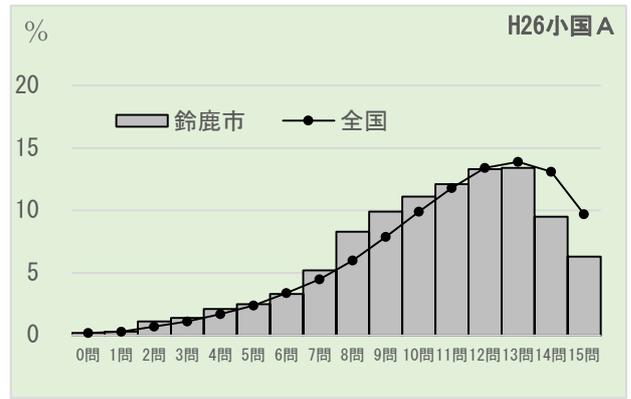


図 14 平成 26 年度 小学校国語 A 正答数分布

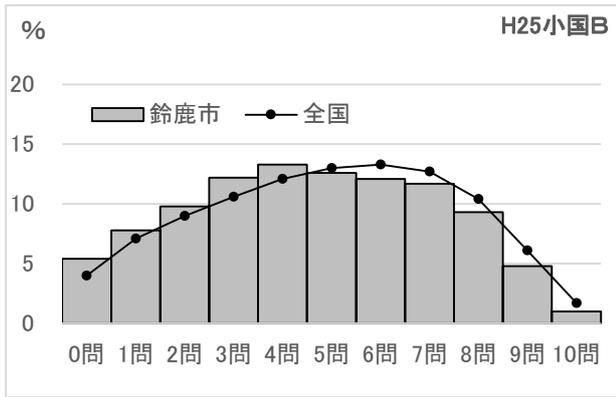


図 15 平成 25 年度 小学校国語 B 正答数分布



図 16 平成 26 年度 小学校国語 B 正答数分布

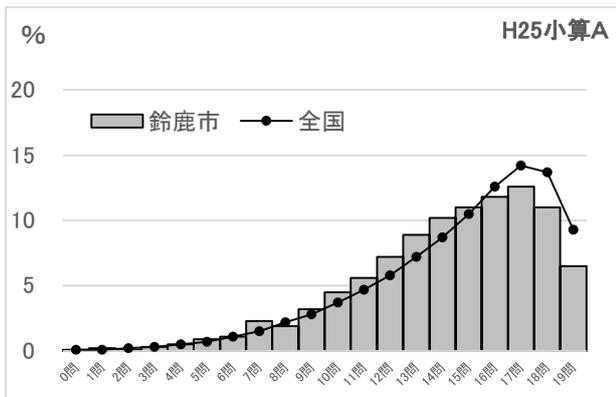


図 17 平成 25 年度 小学校算数 A 正答数分布

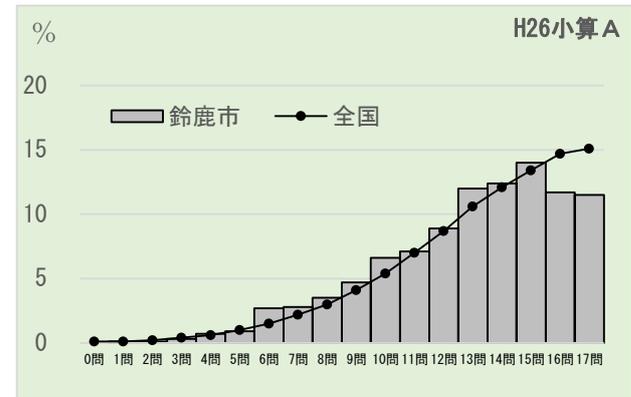


図 18 平成 26 年度 小学校算数 A 正答数分布

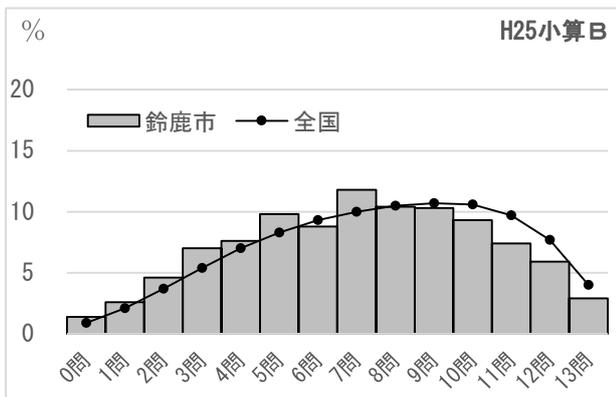


図 19 平成 25 年度 小学校算数 B 正答数分布

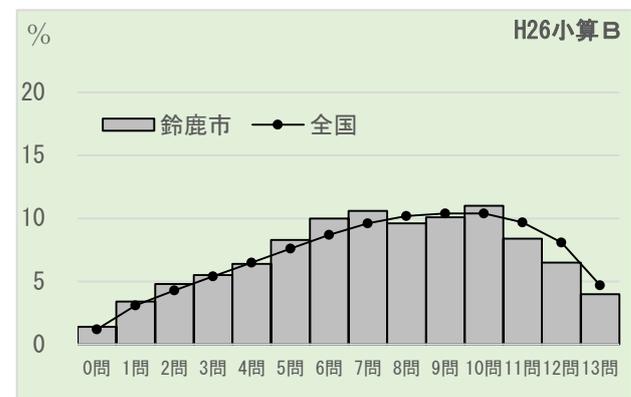


図 20 平成 26 年度 小学校算数 B 正答数分布

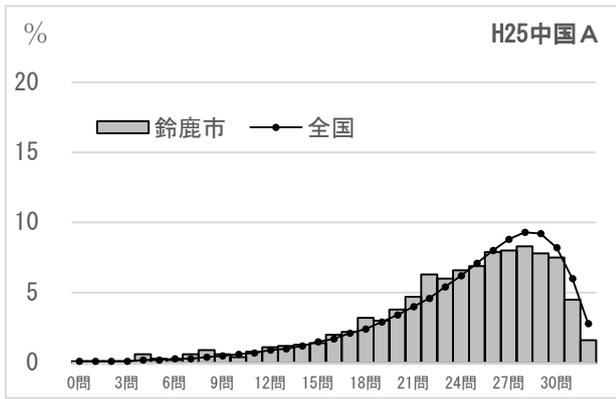


図 21 平成 25 年度 中学校国語 A 正答数分布

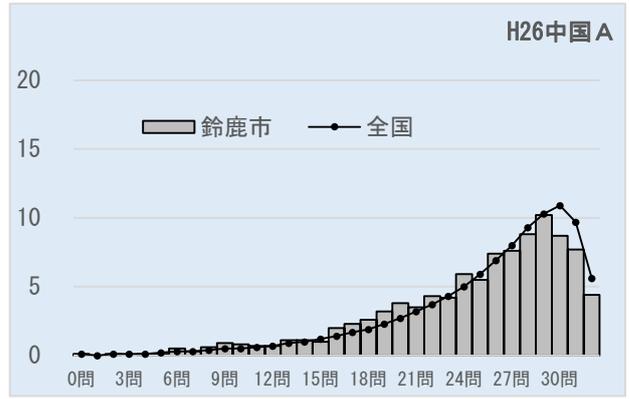


図 22 平成 26 年度 中学校国語 A 正答数分布

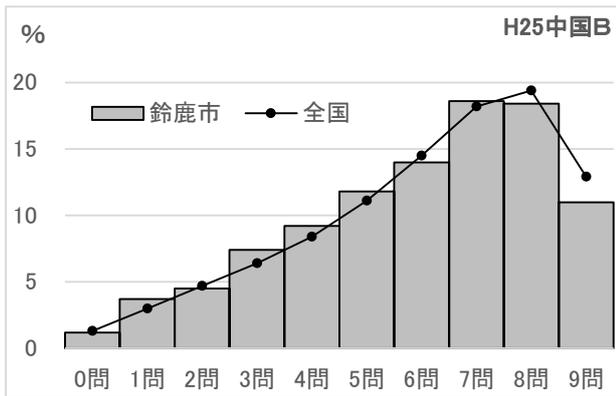


図 23 平成 25 年度 中学校国語 B 正答数分布

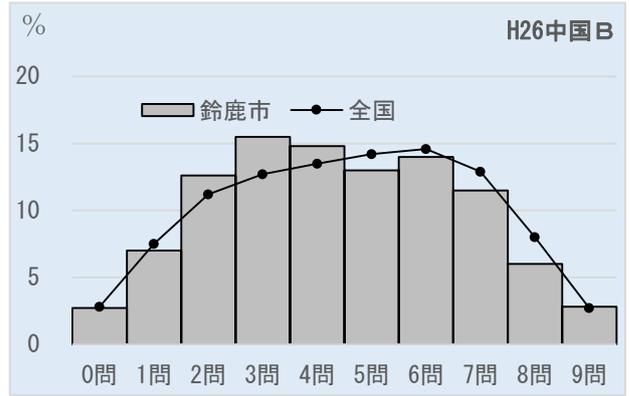


図 24 平成 26 年度 中学校国語 B 正答数分布

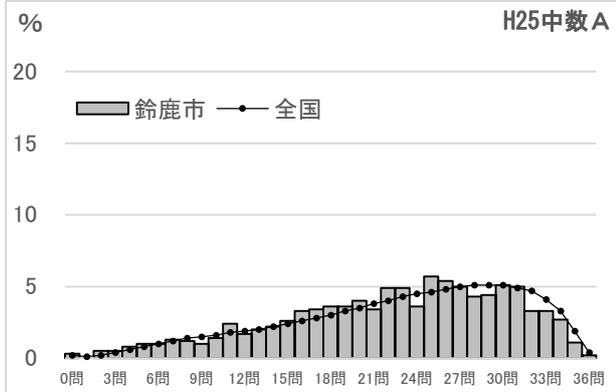


図 25 平成 25 年度 中学校数学 A 正答数分布

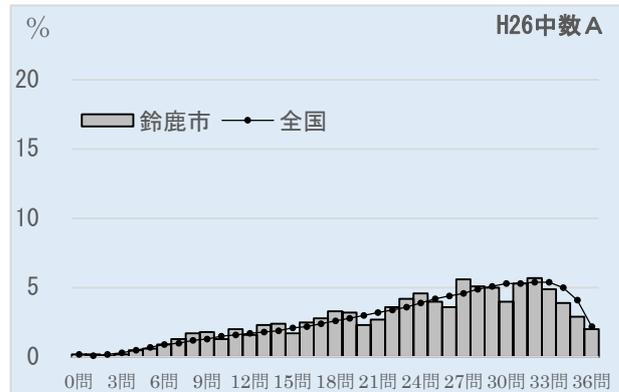


図 26 平成 26 年度 中学校数学 A 正答数分布

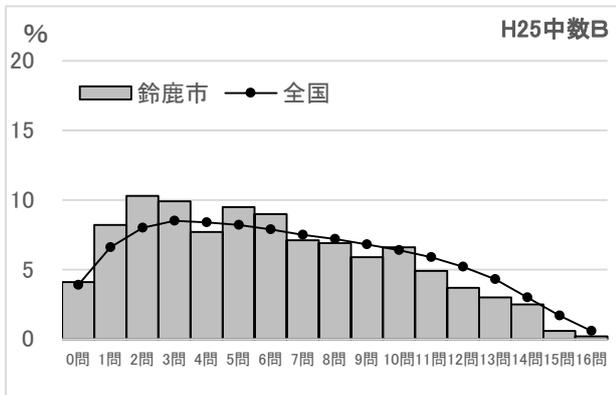


図 27 平成 25 年度 中学校数学 B 正答数分布

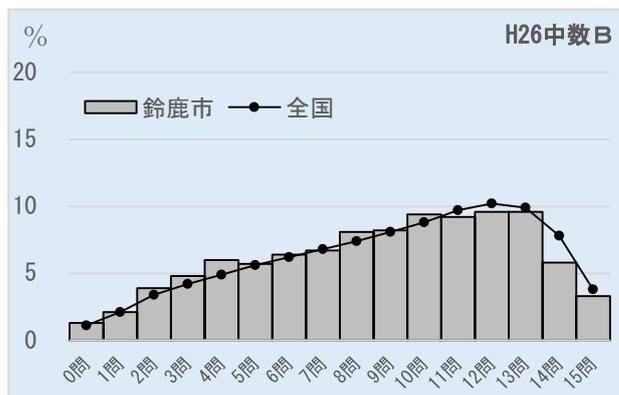


図 28 平成 26 年度 小学校数学 B 正答数分布

3 各教科の調査結果

小学校 国語

(1) 分類・区分・設問別集計結果

< A問題 >

- 「書く」「読む」の平均正答率が70%に満たない。全国平均と比較すると、「言語についての知識・理解・技能」において、平均正答率は、70%に達しているものの、国の平均正答率との差が一番大きく3.7ポイント下回っている。(表7)
- 選択式問題、短答式問題において、全国平均をそれぞれ3.9ポイント、2.9ポイント下回り、差が大きい。(表7)
- 全国平均を上回る正答率の問題が全15問中3問ある。(図31)
- 平均正答率が80%以上の問題が全15問中4問ある。(図31)
- 特に課題のある問題(平均正答率が70%未満)(図31)
 - 1二(2)(3)…「勝利をいわう」「かぜをよぼうする」といった学年別の配当表にある漢字を正しく書くことに課題がある。【言語：短答】
 - 2一 2二…故事成語の意味と使い方を理解することに課題がある。【言語：選択】
 - 3…物語を創作する活動において、情景描写の効果を捉えることに課題がある。
【書く、言語：選択】
 - 4…新聞の投書を読み、表現の仕方を捉えることに課題がある。【読む：選択】
 - 5…登場人物の相互関係を捉えながら物語を読むことに課題がある。【読む：短答】

< B問題 >

- いずれの観点も平均正答率がかなり低い。その中で「書く能力」が33.2%と最も低く、課題が大きい。他にも、「関心・意欲・態度」、「話す・聞く能力」の平均正答率が低く、「話す・聞く能力」においては、全国平均を2.6ポイント下回り、差が大きい。(表7)(図30)
- 記述式問題の平均正答率が33.2%と低い。(表7)(図30)
- 全国平均を上回る正答率の問題が、全10問中3問ある。(図32)
- 特に課題のある問題(平均正答率が50%未満)(図32)
 - 1三…討論の場面において、立場を明確にして質問や意見を述べることに課題がある。
【関・意・態、話す・聞く、書く：記述】
 - 2二…科学に関する本や文章などを読んで、分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関係付けながらまとめて書くことに課題がある。【関・意・態、書く、読む：記述】
 - 3二…二つの詩を読み比べる際に、詩の解釈における着眼点の違いを捉えることに課題がある。
【読む：選択】
 - 3三…詩の内容や表現の仕方などに着目した上で、共通点や相違点を取り上げ、条件に合わせて自分の考えを書くことに課題がある。
【関・意・態、書く、読む：記述】

表 7 小学校国語 分類・区分別集計結果

分類	区分	A(全 15 問)			B(全 10 問)		
		対象 問題数	平均正答率(%)		対象 問題数	平均正答率(%)	
			H26 鈴鹿市	H26 全国(公立)		H26 鈴鹿市	H26 全国(公立)
評価の観点	関心・意欲・態度	0			3	33.2	34.4
	話す・聞く能力	1	72.0	72.4	3	48.6	51.2
	書く能力	3	69.5	72.2	3	33.2	34.4
	読む能力	2	66.0	68.5	7	56.1	57.3
	言語についての知識・理解・技能	12	70.0	73.7	2	69.5	69.8
問題形式	選択式	7	62.7	66.6	4	60.6	62.1
	短答式	8	75.6	78.5	3	65.5	67.7
	記述式	0			3	33.2	34.4

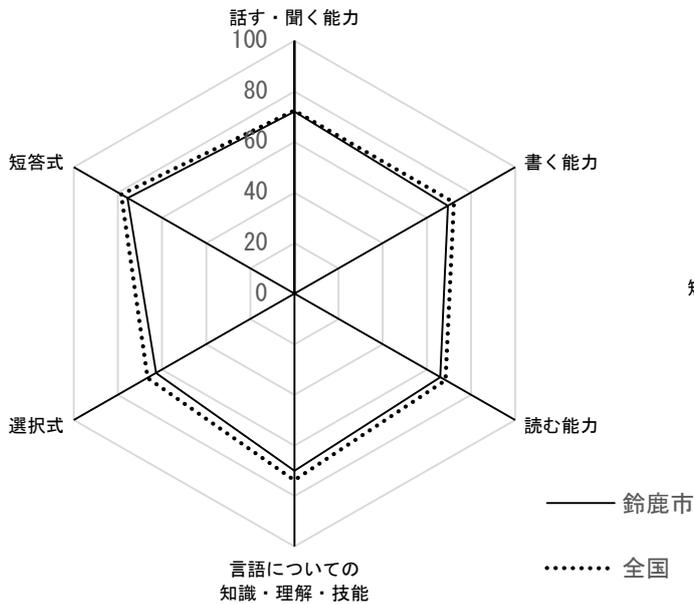


図 29 小学校国語 A 分類・区分別平均正答率からみる弱みと強み

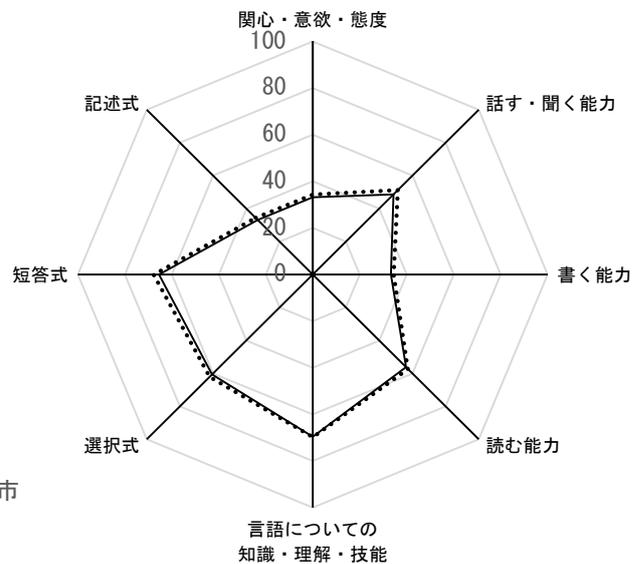


図 30 小学校国語 B 分類・区分別平均正答率からみる弱みと強み

設問番号	小学校 国語A 出題の趣旨	評価の観点				問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		左から「正答率」「誤答率」「無解答率」を表す。 ※誤答率は、 100-(正答率+無解答率)で算出
		関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	鈴鹿市	全国(公立)	全国平均との差	鈴鹿市	
1-1(1)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む				○	○			89.9	91.7	△	2.1	1.7	
1-1(2)					○	○			82.3	87.0	▲	3.8	2.5	
1-1(3)					○	○			74.6	74.4	○	2.0	1.5	
1-2(1)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く				○	○			98.0	97.8	○	0.6	0.6	
1-2(2)					○	○			56.4	59.3	△	8.4	6.8	
1-2(3)					○	○			69.6	77.4	▲	9.5	7.2	
2-1	故事成語の意味と使い方を理解する				○	○			44.7	55.8	▲	0.6	0.3	
2-2					○	○			41.5	49.9	▲	0.6	0.5	
3	情景描写の効果を捉える			○	○	○			55.1	58.7	▲	0.3	0.2	
4	新聞の投書を読み、表現の仕方を捉える				○	○			68.2	71.7	▲	0.4	0.3	
5	物語の登場人物の相互関係を捉える				○	○			63.8	65.3	△	1.3	0.5	
6-1	複数の事柄を並列の関係で書く			○	○	○			70.5	74.9	▲	7.5	5.7	
6-2	仮定の表現として、適切なものを捉える			○	○	○			82.8	83.1	△	3.1	2.0	
7	話合いの観点に基づいて情報を関係付ける		○			○			72.0	72.4	△	2.6	2.1	
8	国語辞典を使って、言葉の意味と使い方を理解する				○	○			74.8	74.3	○	3.2	2.7	

図 31 小学校国語 A 設問別正答率 ※全国平均との差 ▲<-3≤△<0≤○<+3≤◎

設問番号	小学校 国語 B 出題の趣旨	評価の観点					問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		左から「正答率」「誤答率」「無解答率」を表す。 ※誤答率は、 100-(正答率+無解答率)で算出
		関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	鈴鹿市	全国(公立)	全国平均との差	鈴鹿市	全国(公立)	
1一	目的に応じて、話合いの観点を整理する		○					○	64.7	65.2	△	8.9	7.9		
1二	質問の意図を捉える		○				○		54.5	60.2	▲	4.1	3.5		
1三	立場を明確にして、質問や意見を述べる	○	○	○				○	26.6	28.3	△	6.5	5.0		
2一	付箋に書かれた内容を関係付けながら、最初にもった疑問を捉える				○			○	67.3	71.9	▲	10.0	8.2		
2二	分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書く	○		○	○			○	23.3	26.9	▲	8.2	7.4		
2三	課題を解決するために、目次や索引を活用して、本を効果的に読む				○			○	64.4	66.0	△	4.9	4.3		
3一(1)	二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉える				○	○	○		78.7	80.4	△	4.3	4.4		
3一(2)					○	○	○		60.4	59.2	○	5.4	5.5		
3二	詩の解釈における着眼点の違いを捉える				○			○	48.7	48.5	○	20.2	19.8		
3三	二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く	○		○	○			○	49.6	48.1	○	26.1	26.0		

※全国平均との差 ▲<-3≤△<0≤○<+3≤◎

図 32 小学校国語 B 設問別正答率

(2) 小学校国語に関する質問紙調査の結果

＜児童質問紙調査＞

○「国語の学習に対する関心」に関する質問の全ての項目において、昨年度よりも、肯定的回答率が上昇している。(表 8)

●「国語の勉強は、大切だ」と回答した児童の割合は 92.0%と高く、「国語の学習は、社会に出たときに役に立つ」「授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合も 80%を越えており、全国平均を上回っている。しかし、「国語の勉強は好き」と回答する児童の割合が 58.3%と低い。(表 8)

●「読書が好き」と回答する児童の割合が 80%に満たない。また、全国平均を下回っている。(表 8)

○「国語の学習に対する意欲・態度」に関する質問の全ての項目において、昨年度よりも、肯定的回答率が上昇している。(表 9)

●「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」「意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している」についての、肯定的回答率が 50%台と低い。(表 9)

○児童の「調査問題の解答状況」に関する質問において、前年度より、最後まで解答を書こうと努力した児童と、解答時間が足りている児童の割合が高くなっている。(表 10)

＜学校質問紙調査＞

●「国語科の指導方法」について、「発展的な学習の指導」を行っている学校の割合が 43.3%と低い。また、「補充的な学習の指導」「様々な文章を読む習慣を付ける授業」については、行っている学校の割合は 60%を超えているものの、全国平均を 10 ポイント以上下回り、差が大きい。(表 11)

児童質問紙

表 8 児童の「国語の学習に対する関心」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿 市	H26 鈴鹿 市	前年 度比 較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
50	国語の勉強は好きですか	57.6	58.3	↑	59.2	△
51	国語の勉強は大切だと思いますか	89.4	92.0	↑	91.8	○
52	国語の授業の内容はよく分かりますか	78.8	80.7	↑	80.1	○
53	読書は好きですか	71.7	72.0	↑	73.0	△
54	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	85.5	87.4	↑	87.4	○

※全国平均との差 ▲<-3≤△<0≤○<+3≤◎

表9 児童の「国語の学習に対する意欲・態度」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿 市	H26 鈴鹿 市	前年 度比 較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
55	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	53.0	56.9	↑	61.4	▲
56	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか	57.4	58.8	↑	58.5	○
57	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか	67.6	70.5	↑	70.7	△

※全国平均との差 ▲<-3≤△<0≤○<+3≤◎

表10 児童の「調査問題（国語）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿 市	H26 鈴鹿 市	前年 度比 較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
59	解答を文章で書く問題がありましたが、それらの問題で最後まで解答を書こうと努力しましたか	66.8	78.0	↑	76.1	○
60	解答時間は十分でしたか（国語A） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	45.9	84.5	↑	85.5	△
61	解答時間は十分でしたか（国語B） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	51.7	51.8	↑	50.6	○

※全国平均との差 ▲<-3≤△<0≤○<+3≤◎

学校質問紙

表11 「国語科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿 市	H26 鈴鹿 市	前年 度比 較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
59	前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	43.3	60.0	↑	70.9	▲
60	前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	13.3	43.3	↑	40.7	○
61	前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか	73.3	83.3	↑	88.2	▲
62	前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか	86.7	93.3	↑	90.6	○
63	前年度までに、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	70.0	66.6	↓	83.2	▲
64	前年度までに、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか	100.0	96.7	↓	97.8	△

※全国平均との差 ▲<-3≤△<0≤○<+3≤◎

小学校 算数

(1) 分類・区分・設問別集計結果

< A問題 >

○評価の観点，問題形式別に見た場合，どの項目も全国平均との差は，2ポイント台であり，顕著なひらきはない。(表 12) (図 33)

●「数量や図形についての知識・理解」に関する問題の平均正答率が 70%に満たず，全国平均を下回っている。また，問題形式においても，選択式問題の平均正答率が 70%に満たず，全国平均を下回っている。(表 12)

○平均正答率が 80%以上の問題が，全 17 問中 7 問ある。(図 35)

●全国平均を上回る正答率の問題はない。(図 35)

●特に課題のある問題（平均正答率が 70%未満）(図 35)

2(2)…割合が 1 より小さい場合でも，比較量の求め方が（基準量）×（割合）になることについての理解に課題がある。 【知・理：選択】

3…分数を小数で表したり，通分したりして，分数の相等及び大小を判断することに課題がある。 【知・理：選択】

4(2)…単位量にする量を明確にし，単位量あたりの大きさを求めるための立式に課題がある。 【知・理：短答】

6…平行四辺形の作図に用いられている平行四辺形の約束や性質の理解に課題がある。 【知・理：選択】

7…立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係についての理解に課題がある。 【知・理：選択】

< B問題 >

●観点別の平均正答率を見た場合，「数学的な考え方」に関する問題の平均正答率が 44.5%，「数量や図形についての知識・理解」に関する問題の平均正答率が 53.6%と低い。「数学的な考え方」においては，全国平均よりも 3.3 ポイント下回っている。(表 12) (図 34)

●記述式問題の平均正答率が 46.1%と低く，全国平均よりも 3.6 ポイント下回っている。(表 12) (図 34)

○全国平均を上回る正答率の問題が，全 13 問中 2 問ある。(図 36)

●特に課題のある問題(平均正答率が 50%未満) (図 36)

3(1)(3)…宿泊学習の計画を立てる場面において，示された情報を基に，準備に必要な時間を求めたり，スープの配分について必要な量と残りの量の大小を判断し，理由を言葉と数を用いて記述したりすることに課題がある。 【数学的な考え方：短答，記述】

5(2)(3)…昼の敷き方や使いやすい箸の長さを考える場面において，示された情報を解釈し，基準量と比較量の大きさの関係を図で捉えたり，示された情報を整理し，筋道を立てて考え，小数倍の長さの求め方を言葉や式を用いて記述したりすることに課題がある。

【知・理：選択，数学的な考え方：記述】

表 12 小学校算数 分類・区分別集計結果

分類	区分	A(全 17 問)			B(全 13 問)		
		対象 設問数 H26	平均正答率(%)		対象 設問数 H26	平均正答率(%)	
			H26 鈴鹿市	H26 全国(公立)		H26 鈴鹿市	H26 全国(公立)
評価の観点	関心・意欲・態度	0			0		
	数学的な考え方	0			6	44.5	47.8
	数量や図形についての技能	8	85.8	87.9	4	75.7	76.2
	数量や図形についての知識・理解	9	66.6	69.5	3	53.6	54.8
問題形式	選択式	8	68.0	70.7	4	63.8	64.7
	短答式	9	82.5	84.8	4	61.3	62.2
	記述式	0			5	46.1	49.7

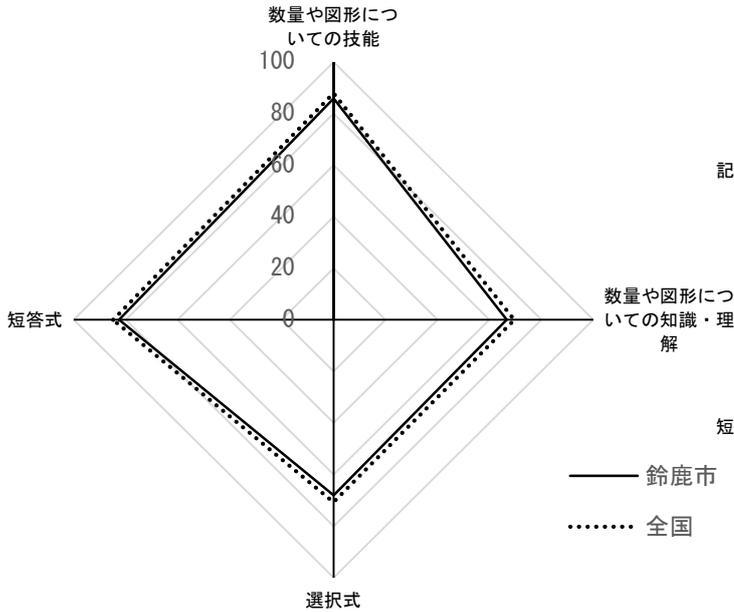


図 33 小学校算数 A 分類・区分別平均正答率からみる弱みと強み

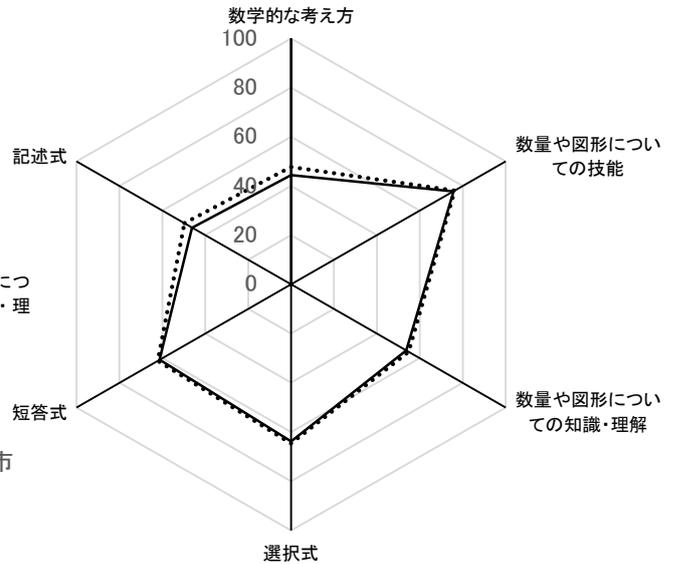


図 34 小学校算数 B 分類・区分別平均正答率からみる弱みと強み

設問番号	小学校算数A 出題の趣旨	評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		左から「正答率」「誤答率」「無解答率」を表す。 ※誤答率は、 100-(正答率+無解答率)で算出
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	鈴鹿市	全国(公立)	全国平均との差	鈴鹿市	全国(公立)	
1 (1)	繰り上がりのある加法の計算をすることができる		○		○		96.7	96.9	△	0	0.1		
1 (2)	被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる		○		○		92.1	92.8	△	0.2	0.2		
1 (3)	小数第1位までの減法の計算をすることができる		○		○		83.2	83.8	△	1.1	0.8		
1 (4)	商が小数になる除法の計算をすることができる		○		○		90.8	91.8	△	1.1	0.9		
1 (5)	減法と乗法の混合した整数の計算をすることができる		○		○		78.1	80.9	△	0.5	0.5		
1 (6)	異分母の分数の加法の計算をすることができる		○		○		89.5	90.6	△	1.5	1.1		
2 (1)	割合が1より大きい場合、比較量の求め方が(基準量)×(割合)になることを理解している			○	○		71.4	71.9	△	0.4	0.3		
2 (2)	割合が1より小さい場合でも、比較量の求め方が(基準量)×(割合)になることを理解している			○	○		51.5	54.1	△	0.4	0.4		
3	分数の相等及び大小について理解している			○	○		68.5	72.5	▲	1.1	0.6		
4 (1)	二つの数量の関係について、単位量当たりの大きさを調べる場面と図とを関連付けることができる			○	○		80.3	82.3	△	1.1	0.7		
4 (2)	単位量当たりの大きさの求め方を理解している			○	○		54.4	60.8	▲	3.9	3.4		
5 (1)	円周の長さを、直径の長さを用いて求めることができる		○		○		76.8	83.9	▲	1.3	1.5		
5 (2)	体積の単位(1cm ³)と測定について理解している			○	○		80.8	81.1	△	2.3	1.8		
6	作図に用いられている図形の約束や性質を理解している			○	○		46.0	52.0	▲	1	0.6		
7	立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係について理解している			○	○		68.5	69.4	△	1.1	0.7		
8	四則の混合した式の意味について理解している			○	○		78.2	81	△	1.7	0.9		
9	二つの数量の関係を□、△などの記号を用いて式に表すことができる		○		○		79.6	82	△	1.9	1.2		

図 35 小学校算数 A 設問別正答率 18

※全国平均との差 ▲<-3≤△<0≤○<+3≤◎

設問番号	小学校算数B 出題の趣旨	評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		左から「正答率」「誤答率」「無解答率」を表す。 ※誤答率は、 100-(正答率+無解答率)で算出
		関心・意欲・態度	数学的な考え方 数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	鈴鹿市	全国(公立)	全国平均との差	鈴鹿市	全国(公立)	
1 (1)	示された場面から計算の結果の見通しをもち、(2位数)×(1位数)の筆算をすることができる		○		○		94.2	94.6	△	0.3	0.3		
1 (2)	示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を記述できる		○			○	51.7	55.2	▲	7.4	6		
2 (1)	示された場面から基準量と比較量を捉え、倍を求めることができる		○			○	81.9	82.5	△	3.8	3		
2 (2)	最大値に着目して、棒グラフの棒を枠の中に表すことができない理由を記述できる		○			○	66.1	69.1	△	3.5	2.6		
2 (3)	全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択することができる			○	○		65.1	61.5	◎	2.1	1.2		
3 (1)	示された情報を基に、条件に合う時間を求めることができる		○			○	36.3	38.6	△	4.2	3.4		
3 (2)	10人分の量を基に40人分の量を相対的に捉え、その関係を表している図を選択することができる			○	○		54.1	56.7	△	2.3	1.8		
3 (3)	示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述できる		○			○	27.6	30.6	△	2	1.9		
4 (1)	繰り返されるリズムの規則性(周期)を見だし、それを基に小節数を求めることができる		○			○	60.8	62.2	△	1.8	1.7		
4 (2)	二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述できる		○			○	57.5	60.5	△	13.7	12.1		
5 (1)	示された条件を基に、残った平面に4つの長方形を敷き詰めることができる		○			○	66.0	65.7	○	5.2	5.2		
5 (2)	示された情報を解釈し、基準量の1.5倍の長さを表している図を選択することができる			○	○		41.6	46.1	▲	3.7	3.5		
5 (3)	示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述できる		○			○	27.9	33.0	▲	14	13.1		

図 36 小学校算数 B 設問別正答率

※全国平均との差 ▲<-3≤△<0≤○<+3≤◎

(2) 小学校算数に関する質問紙調査の結果

＜児童質問紙調査＞

○「算数の学習に対する関心」に関する質問の全て項目において、昨年度よりも、肯定的回答率が上昇している。(表 13)

●「算数の勉強は、大切だ」と回答した児童の割合は 93.2%と高く、「算数の学習は、社会に出たときに役に立つ」「授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合も 80%を越えている。しかも、「授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合は、全国平均を上回っている。しかし、「算数の勉強は好き」と回答する児童の割合が、昨年度よりは上昇したものの、67.0%と他の質問に比べ低い。(表 13)

●「新しい問題に出合ったときに、解いてみたい」と回答した児童の割合は、80%に満たない。(表 13)

○「算数の学習に対する意欲・態度」に関する質問の全ての項目において、昨年度よりも、肯定的回答率が高い。(表 14)

●「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないかを考える」についての肯定的回答率が 66.6%で、他の質問に比べ低い。(表 14)

○児童の「調査問題の解答状況」に関する質問において、前年度より、最後まで努力して解答しようとした児童の割合が上昇し、全国平均を上回っている。また、解答時間が足りていると回答した児童の割合も上昇している。(表 15)

＜学校質問紙調査＞

●「算数科の指導方法」について、「発展的な学習の指導」を行っている学校の割合が 36.7%と低く、全国平均との差も大きい。「補充的な学習の指導」「発展的な学習の指導」ともに「計算問題などの反復練習をする授業」に比べ、随分と実施率が低い。(表 16)

児童質問紙

表 13 児童の「算数の学習に対する関心」に関する質問における肯定的解答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿 市	H26 鈴鹿 市	前年 度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
62	算数の勉強は好きですか	65.2	67.0	↑	66.1	○
63	算数の勉強は大切だと思いますか	90.3	93.2	↑	92.3	○
64	算数の授業の内容はよく分かりますか	78.2	80.7	↑	79.6	○
65	算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか	76.9	78.6	↑	77.3	○
68	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	87.3	88.8	↑	89.0	△

※全国平均との差 ▲<-3≤△<0≤○<+3≤◎

表 14 児童の「算数の学習に対する意欲・態度」に関する質問における肯定的解答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿 市	H26 鈴鹿 市	前年 度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
66	算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	76.5	78.2	↑	78.1	○
67	算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	62.5	66.6	↑	66.3	○
69	算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	77.5	81.3	↑	79.4	○
70	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	78.9	81.7	↑	81.3	○
71	算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	81.5	83.0	↑	83.4	△

※全国平均との差 ▲<-3≤△<0≤○<+3≤◎

表 15 児童の「調査問題（算数）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿 市	H26 鈴鹿 市	前年 度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
72	言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、それらの問題で最後まで解答を書こうと努力しましたか	70.5	80.5	↑	79.7	○
73	解答時間は十分でしたか（算数 A） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	70.9	89.1	↑	89.4	△
74	解答時間は十分でしたか（算数 B） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	62.3	74.5	↑	76.4	△

※全国平均との差 ▲<-3≤△<0≤○<+3≤◎

学校質問紙

表 16 「算数科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿 市	H26 鈴鹿 市	前年 度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
66	前年度までに、補足的な学習の指導を行いましたか	80.0	83.3	↑	89.5	▲
67	前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	36.6	36.7	↑	58.3	▲
68	前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	33.4	66.7	↑	66.2	○
69	前年度までに、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか	90.0	96.7	↑	97.4	△

※全国平均との差 ▲<-3≤△<0≤○<+3≤◎

中学校 国語

(1) 分類・区分・設問別集計結果

< A問題 >

- 「話す・聞く」の平均正答率が 69.1%で、70%に満たない。全国平均との差も大きく、3.2 ポイント下回っている。(表 17) (図 37)
- 短答式問題の平均正答率が 69.6%で、70%に満たない。(表 17) 図 39 を見ると、短答式問題にあたる漢字の読み書き問題 (8番) に平均正答率が低い問題がある。
 - 全国平均を上回る正答率の問題が 32 問中 4 問ある。(図 39)
 - 平均正答率が 80%以上の問題が 32 問中 13 問ある。(図 39)
- 特に課題のある問題 (平均正答率が 70%未満) (図 39)
 - 6一…話し合いの場面における二つの提案の共通点と相違点を踏まえ整理するとことに課題がある。【話す・聞く：短答】
 - 7二…絵の鑑賞文を書く場面で、書いた文章について意見を交流し、文章を書き直すことに課題がある。【書く：選択】
 - 8一1, 2…文脈に即して、正しく漢字を書くことに課題がある。【言語：短答】
 - 8二1…文脈に即して、正しく漢字を読むことに課題がある。【言語：短答】
 - 8三ア…ことわざの意味を理解し、文脈の中で適切に使うことに課題がある。【言語：選択】
 - 8四…辞書を活用して、語句の意味を適切に書くことに課題がある。【言語：短答】
 - 8五2…古典と昔話とを対応させて内容を捉えることに課題がある。【言語：短答】

< B問題 >

- いずれの観点も平均正答率がかなり低いが、その中で「関心・意欲・態度」「書く」が 38.0%と最も低い。また、全国平均を 3 ポイント下回り差が大きい。(表 17) (図 38)
- 記述式問題の平均正答率が 38.0%と低い。(表 17)
 - 全国平均を上回る正答率の問題が、全 9 問中 2 問ある。(図 40)
- 特に課題のある問題(平均正答率が 50%未満) (図 40)
 - 1三…標語を考える場面で、文章の構成や表現の仕方などについて、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題がある。【関・意・態、書く、読む、言語：記述】
 - 2一…複数の資料を比較して読み、要旨を捉えることに課題がある。【読む：選択】
 - 2三…資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くことに課題がある。【関・意・態、書く、読む：記述】
 - 3一…本や文章から、目的に応じて必要な情報を読み取ることに課題がある。【読む：選択】
 - 3三…本文に書かれた内容を根拠にして、自分の考えを書くことに課題がある。【関・意・態、書く、読む、言語：記述】

表 17 中学校国語 分類・区分別集計結果

分類	区分	A(全 32 問)			B(全 9 問)		
		対象 設問数 H26	平均正答率(%)		対象 設問数 H26	平均正答率(%)	
			H26 鈴鹿市	H26 全国(公立)		H26 鈴鹿市	H26 全国(公立)
評価の観点	関心・意欲・態度	0			3	38.0	41.0
	話す・聞く能力	4	69.1	72.3	0		
	書く能力	6	80.9	83.4	3	38.0	41.0
	読む能力	5	81.9	82.9	8	46.5	49.2
	言語についての 知識・理解・技能	17	75.9	78.7	4	54.9	56.8
問題形式	選択式	20	81.3	83.2	6	54.5	55.9
	短答式	12	69.6	73.1	0		
	記述式	0			3	38.0	41.0

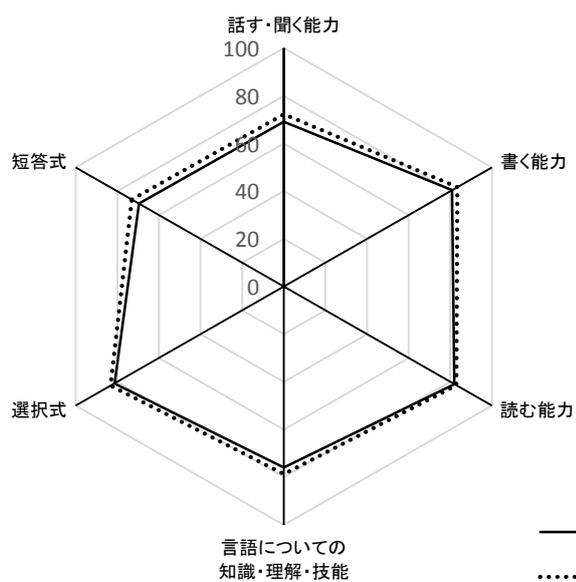


図 37 中学校国語 A 分類・区分別平均正答率からみる弱みと強み

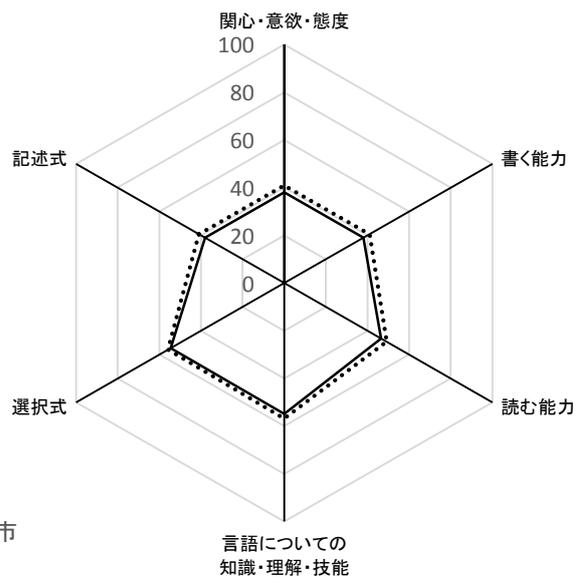


図 38 中学校国語 B 分類・区分別平均正答率からみる弱みと強み

設問番号	中学校 国語A 出題の趣旨	評価の観点				問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		左から「正答率」「誤答率」「無解答率」を表す。 ※誤答率は、100-(正答率+無解答率)で算出
		関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力 <small>言語についての知識・理解・技能</small>	選択式	短答式	記述式	鈴鹿市	全国(公立)	全国平均との差	鈴鹿市	全国(公立)	
1一	目的に応じて、資料を効果的に活用して話す		○			○		76.2	78.6	△	0.1	0.2		
1二	必要に応じて質問し、足りない情報を聞き出す		○			○		76.2	80.3	▲	0.1	0.2		
2一	心情が相手に効果的に伝わるように、描写を工夫して書き加える			○		○		89.0	90.9	△	0.2	0.2		
2二	語句や文の使い方に注意して、伝えたい心情にふさわしい言葉に書き換える			○		○		77.5	79.8	△	9	9.2		
3一	登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する				○	○		92.3	91.9	○	0.2	0.2		
3二	文脈の中における語句の意味を理解する				○	○		78.2	79.8	△	0.2	0.2		
3三	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する				○	○		77.0	79.1	△	0.2	0.4		
4一	集めた材料を分類するなどして整理する			○		○		90.8	92.6	△	0.5	0.4		
4二	叙述の仕方などを確かめて、適切に書き換える			○		○		78.4	80.5	△	3.5	3.1		
5一	抽象的な概念を表す語句が示すものについて理解する				○	○		75.2	78.2	△	0.3	0.4		
5二	文章全体と部分との関係を考え、内容を理解する				○	○		86.8	85.6	○	0.5	0.5		
6一	目的に沿って話し合い、互いの発言を検討する		○				○	51.7	54.3	△	6.2	5.9		
6二	話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たす		○				○	72.3	76.0	▲	1.3	1.2		
7一	多様な方法で材料を集めながら考えをまとめる			○		○		81.9	84.6	△	0.6	0.6		
7二	書いた文章について意見を交流し、文章を書き直す			○		○		68.0	72.1	▲	1.2	1		
8一	文脈に即して漢字を正しく書く				○	○		50.9	57.6	▲	15.5	12.3		
8一		2				○	○	54.0	59.5	▲	3.9	3.3		
8一		3				○	○	76.7	73.6	◎	9.1	10.9		
8二	文脈に即して漢字を正しく読む				○	○		63.3	77.0	▲	11.2	7.7		
8二		2				○	○	83.5	88.6	▲	5.8	4.1		
8二		3				○	○	93.4	95.2	△	2.1	1.3		
8三	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う				○	○		56.8	59.2	△	0.9	1		
8三		イ				○	○	95.8	96.2	△	0.5	0.6		
8三		ウ				○	○	77.0	80.8	▲	0.6	0.8		
8三		エ				○	○	89.9	89.5	○	0.7	0.7		
8三		オ				○	○	91.7	93.0	△	0.7	0.8		
8三		カ				○	○	84.5	86.3	△	0.9	1.1		
8三		キ				○	○	91.7	92.1	△	1	1		
8四		辞書を活用して、語句の意味を適切に書く				○	○	57.5	59.9	△	13.5	12.3		
8五	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む				○	○	80.1	80.3	△	6.5	7			
8五	古典と昔話とを対応させて内容を捉える				○	○	68.0	71.0	△	8.7	9			
8六	文字の大きさ、配列などに注意して書く				○	○	75.5	77.6	△	1.6	1.6			

図 39 中学校国語 A 設問別正答率

※全国平均との差 ▲<-3 ≤ △<0 ≤ ○<+3 ≤ ◎

設問番号	中学校 国語B 出題の趣旨	評価の観点				問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		左から「正答率」「誤答率」「無解答率」を表す。 ※誤答率は、 100-(正答率+無解答率)で算出
		関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	鈴鹿市	全国(公立)	全国平均との差	鈴鹿市	
1一	表現の技法について理解する					○	○		69.1	65.3	◎	0.5	0.3	
1二	文章に表れているものの見方について、自分の考えをもつ							○	55.3	58.9	▲	0.7	0.4	
1三	文章の構成や表現の仕方などについて、根拠を明確にして自分の考えを書く	○		○	○	○		○	42.4	48.2	▲	3.5	3.4	
2一	複数の資料を比較して読み、要旨を捉える							○	32.0	31.4	○	0.7	0.6	
2二	複数の資料から必要な情報を読み取る							○	57.3	60.9	▲	0.8	0.7	
2三	資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く	○		○	○			○	28.3	28.4	△	15.1	16.0	
3一	本や文章から、目的に応じて必要な情報を読み取る							○	48.6	52.0	▲	0.9	0.7	
3二	落語に登場する人物の言動の意味を考え、その姿を想像する							○	64.8	67.2	△	1.0	0.8	
3三	落語に表れているものの見方や考え方について、根拠を明確にして自分の考えを書く	○		○	○			○	43.3	46.5	▲	8.8	8.6	

※全国平均との差 ▲<-3≤△<0≤○<+3≤◎

図 40 中学校国語 B 設問別正答率

(2) 中学校国語に関する質問紙調査の結果

＜生徒質問紙調査＞

- 「国語の学習に対する関心」に関する質問の中で、「国語の勉強は大切」と回答した生徒の割合は 89.2%と高いが、「国語の勉強が好き」と回答した生徒の割合は 59.6%と低い。全国平均を 1.4 ポイント上回っているものの、昨年度の結果を下回っている。(表 18)
 - 「国語の学習は、社会に出たときに役に立つ」と回答した生徒の割合が全国平均を 1 ポイント下回っている。また、「国語の授業の内容はよく分かる」と回答した生徒の割合が、昨年度よりも 2.9 ポイント下回っている。(表 18)
 - 「読書が好き」と回答した生徒の割合は、70%に満たない。小学校 6 年生と比べると、2.2 ポイント下回る。(表 18) (表 8)
 - 「国語の学習に対する意欲・態度」に関する質問の中で、特に、「意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している」と回答した生徒の割合が、48.0%と低い。また、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」と回答した生徒の割合も 57.3%と低い。さらに、「自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書く」と回答した生徒の割合も 61.4%と高くない。(表 19)
 - 生徒の「調査問題の解答状況」に関する質問において、「最後まで解答を書こうと努力した」と回答した生徒の割合が全国平均を 2.3 ポイント上回っているものの、昨年度より 1.7 ポイント下回っている。(表 20)
- 解答時間が足りている生徒の割合が昨年度に比べ、大きく上昇している。(表 20)

＜学校質問紙調査＞

- 「補充的な学習の指導」「発展的な学習の指導」を行っている学校の割合が 50.0%と低い。また、「様々な文章を読む習慣を付ける授業」についても、行っている学校の割合が 60.0%と低い。これら 3 つの質問については、全国平均との差も大きい。(表 21)
- 「書く習慣を付ける授業」「漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業」については、100%の学校が実施していると回答している。(表 21)

生徒質問紙

表 18 生徒の「国語の学習に対する関心」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿 市	H26 鈴鹿 市	前年 度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
50	国語の勉強は好きですか	62.2	59.6	↓	58.2	○
51	国語の勉強は大切だと思いますか	87.0	89.2	↑	89.0	○
52	国語の授業の内容はよく分かりますか	77.3	74.4	↓	72.0	○
53	読書は好きですか	68.8	69.8	↑	69.4	○
54	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	82.9	81.5	↓	82.5	△

※全国平均との差 ▲<-3≦△<0≦○<+3≦◎

表 19 生徒の「国語の学習に対する意欲・態度」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿 市	H26 鈴鹿 市	前年 度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
55	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	54.2	57.3	↑	56.1	○
56	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか	47.1	48.0	↑	49.1	△
57	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか	62.2	61.4	↓	60.3	○

※全国平均との差 ▲<-3≤△<0≤○<+3≤◎

表 20 生徒の「調査問題（国語）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿 市	H26 鈴鹿 市	前年 度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
59	解答を文章で書く問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか	74.4	72.7	↓	70.4	○
60	解答時間は十分でしたか（国語 A） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	89.9	93.2	↑	93.0	○
61	解答時間は十分でしたか（国語 B） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	70.8	79.5	↑	79.5	○

※全国平均との差 ▲<-3≤△<0≤○<+3≤◎

学校質問紙

表 21 「国語科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿 市	H26 鈴鹿 市	前年 度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
59	前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	60.0	50.0	↓	74.9	▲
60	前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	40.0	50.0	↑	56.0	▲
61	前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか	60.0	80.0	↑	81.5	△
62	前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか	80.0	100.0	↑	93.6	◎
63	前年度までに、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	60.0	60.0	—	86.1	▲
64	前年度までに、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか	100.0	100.0	—	98.3	○

※全国平均との差 ▲<-3≤△<0≤○<+3≤◎

中学校 数学

(1) 分類・区分・設問別集計結果

< A 問題 >

○評価の観点、問題形式別に見た場合、どの項目も全国平均を下回っているが、差は、2ポイント未満であり、小学校国語、算数、中学校国語と比較すると最も差が小さい。

(表 22) (表 7) (表 12) (表 17)

●「数学的な技能」「数量や図形などについての知識・理解」のどちらも平均正答率は、60%台と低い。また、問題形式別に見ても、選択式問題、短答式問題ともに平均正答率が60%台と低い。(表 22) (図 41)

○全国平均を上回る正答率の問題が全 36 問中 5 問ある。(図 43)

●特に課題のある問題 (平均正答率が 70%未満) (図 43)

2 (1) …数量の大小関係を不等式に表すことに課題がある。【技能：短答】

3 (2)(4) …分数を含む一元一次方程式を解くことや、連立二元一次方程式を解くことに課題がある。【技能：短答】

4 (2)(3) …線分の垂直二等分線の作図方法についての理解や、図形の回転移動について、移動前と移動後の 2 つの図形の辺や角の対応を読み取ることに課題がある。

【知・理、技能：選択】

5 (3)(4) …円錐の展開図において、側面のおうぎ形の半径が円錐の母線に対応していることや、円錐の体積は底面が合同で高さが等しい円柱の体積の $\frac{1}{3}$ であることへの理解に課題がある。

【技能：短答、知・理：選択】

6 (1)(3) …記号で表された図形の構成要素間の関係を読み取ることや、 n 角形の内角の和を求める式の意味の理解に課題がある。

【技能：選択、知・理：選択】

9 …関数の意味の理解に課題がある。【知・理：短答】

1 0 (1)(3)(4) …比例の関係を式に表したり、式から 2 つの数量の関係が比例であることを判断したりすることや、反比例について、グラフと表を関連付けることに課題がある。

【技能：短答、知・理：選択】

1 1 (1) …一次関数の表における、変化の割合の意味への理解に課題がある。【知・理：選択】

1 2 …連立二元一次方程式の解が、座標平面上の 2 直線の交点の座標として求められることへの理解に課題がある。【知・理：選択】

1 3 (1)(2) …度数分布表を見て、ある階級の相対度数を求めることや、ヒストグラムから中央値が含まれる階級を判断することに課題がある。【技能：短答、知・理：選択】

1 4 (2) …樹形図などを利用して、確率を求めることに課題がある。【技能：短答】

< B問題 >

●評価の観点のうち、「数学的な考え方」の平均正答率が 55.7%と低く、問題形式別に見ると、記述式の問題での平均正答率が 42.1%と低い。(表 22)

○全国平均を上回る正答率の問題が全 15 問中 2 問ある。(図 44)

○平均正答率が 80%を上回る問題が全 15 問中 2 問ある。(図 44)

●特に課題のある問題 (平均正答率が 50%未満) (図 44)

2(3)…予想された事柄が成り立たないことを判断し、その事柄が成り立たない理由を反例を取り上げて説明することに課題がある。【数学的な見方や考え方：記述】

4(1)(2)…図形の合同について、証明の方針を立てて証明を書くことや、証明の過程や結論を基に、新たな性質を見い出すなど発展的に考えることに課題がある。

【数学的な見方や考え方：記述，短答】

5(2)…不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。【数学的な見方や考え方：記述】

6(3)…一次関数の 2 つのグラフの傾きや交点の意味を解釈し、問題解決のため数学を活用することに課題がある。【数学的な見方や考え方：記述】

表 22 中学校数学 分類・区分別集計結果

分類	区分	A(全 36 問)			B(全 15 問)		
		対象 設問数 H26	平均正答率(%)		対象 設問数 H26	平均正答率(%)	
			H26 鈴鹿市	H26 全国(公立)		H26 鈴鹿市	H26 全国(公立)
評価の観点	関心・意欲・態度	0			0		
	数学的な考え方	0			14	55.7	57.9
	数学的な技能	15	66.4	68.2	0		
	数量や図形などについての知識・理解	21	65.0	66.8	1	85.8	87.5
問題形式	選択式	18	62.6	64.4	3	81.5	83.2
	短答式	18	68.5	70.4	6	61.3	63.3
	記述式	0			6	42.1	44.8

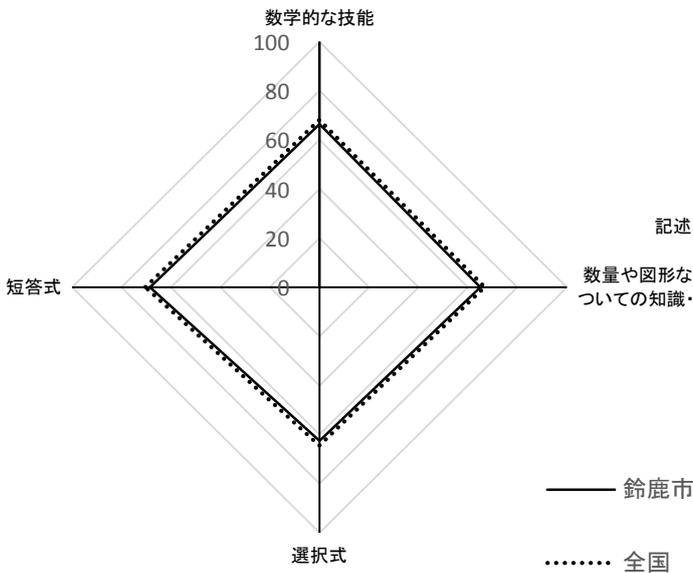


図 41 中学校数学 A 分類・区分別平均正答率からみる弱みと強み

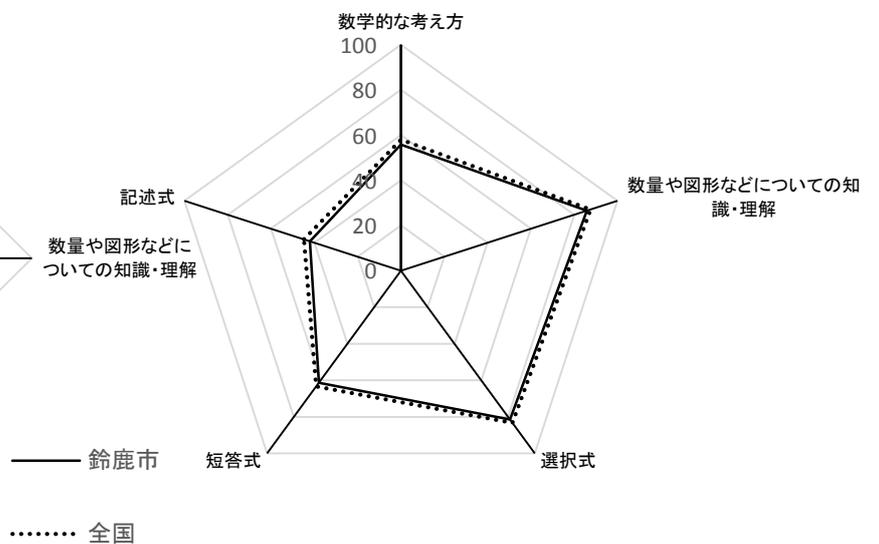


図 42 中学校数学 B 分類・区分別平均正答率からみる弱みと強み

設問番号	中学校 数学A 出題の趣旨	評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		左から「正答率」「誤答率」「無解答率」を表す。 ※誤答率は、 100-(正答率+無解答率)で算出
		関心・意欲・態度	数学的な見方や考え	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	鈴鹿市	全国(公立)	全国平均との差	鈴鹿市	全国(公立)	
1(1)	分数の除法の計算ができる		○			○	85.4	85.8	△	2.6	2.8		
1(2)	指数を含む正の数と負の数の計算ができる		○			○	72.8	70.7	○	1.7	1.5		
1(3)	絶対値の意味を理解している			○		○	82.0	81.0	○	4.3	5.9		
1(4)	正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結び付けて理解している			○		○	91.9	91.1	○	2.4	2.3		
2(1)	数量の大小関係を不等式に表すことができる		○			○	42.6	45.2	△	10.4	11.1		
2(2)	単項式どうしの除法の計算ができる		○			○	90.0	90.7	△	2.4	2.4		
2(3)	指数を含む文字式に数を代入して式の値を求めることができる		○			○	81.2	82.6	△	4.9	5.9		
2(4)	数量を文字式で表すことができる		○		○		90.6	91.2	△	0.6	0.4		
3(1)	等式の性質と移項の関係を理解している			○	○		87.8	89.7	△	0.7	0.6		
3(2)	分数を含む一元一次方程式を解くことができる		○			○	53.0	59.5	▲	13.4	12.4		
3(3)	着目する必要がある数量を見だし、その数量に着目し、連立二元一次方程式をつくることのできる			○		○	73.2	74.1	△	1.0	1.0		
3(4)	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる		○			○	63.4	67.2	▲	10.7	10.0		
4(1)	対称軸が与えられたときに、線対称な図形を完成することができる		○			○	94.3	93.8	○	2.6	2.5		
4(2)	線分の垂直二等分線の作図の方法について理解している			○	○		54.7	56.0	△	0.8	0.7		
4(3)	図形の回転移動について、移動前と移動後の2つの図形の辺や角の対応を読み取ることができる		○		○		41.4	42.5	△	0.7	0.6		
5(1)	空間における直線と平面の平行について理解している			○		○	76.8	81.0	▲	4.7	4.2		
5(2)	平面図形をその面と垂直な方向に平行に移動させたときの、空間図形の構成について理解している			○	○		83.2	84.8	△	0.6	0.5		
5(3)	円錐の展開図において、おうぎ形の半径が円錐の母線に対応していることを読み取ることができる		○			○	64.9	67.7	△	8.0	7.4		
5(4)	底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係について理解している			○	○		31.3	38.7	▲	1.0	0.7		
6(1)	記号で表された図形の構成要素間の関係を読み取ることができる		○			○	61.0	61.7	△	0.6	0.6		
6(2)	三角形の外角とそれと隣り合わない2つの内角の和の関係を理解している			○	○		72.1	73.4	△	0.8	1.0		
6(3)	n角形の内角の和を求める式 $180^\circ \times (n-2)$ における(n-2)の意味を理解している			○	○		43.5	47.8	▲	1.0	1.0		
7	証明を読み、根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している			○	○		71.9	73.1	△	0.8	0.9		
8	証明のための構想や方針の必要性和意味を理解している			○	○		73.9	75.8	△	6.8	7.2		
9	関数の意味を理解している			○		○	33.0	35.8	△	19.8	17.9		
10(1)	比例の関係を式に表すことができる		○			○	51.8	56.7	▲	13.5	13.0		
10(2)	反比例の意味を理解している			○	○		72.8	75.9	▲	1.3	1.1		
10(3)	与えられた式を基に、事象における2つの数量の関係が比例であることを判断することができる			○	○		57.8	60.4	△	2.0	1.5		
10(4)	反比例について、グラフと表を関連付けて理解している			○	○		45.5	45.7	△	2.0	1.7		
11(1)	一次関数の変化の割合の意味を理解している			○	○		44.1	47.3	▲	1.9	1.8		
11(2)	一次関数 $y=ax+b$ について、aとbの値とグラフの特徴を関連付けて理解している			○	○		74.4	75.1	△	1.3	1.4		
12	連立二元一次方程式の解が、2直線の交点の座標として求められることを理解している			○	○		66.2	66.7	△	2.5	2.5		
13(1)	度数分布表から相対度数を求めることができる		○			○	40.7	42.7	△	17.4	16.7		
13(2)	ヒストグラムにおいて、中央値の意味を理解している			○	○		52.7	52.0	○	1.9	1.8		
14(1)	確率の意味を理解している			○	○		75.5	76.6	△	2.1	2.0		
14(2)	樹形図などを利用して、確率を求めることができる		○			○	62.9	65.1	△	11.0	10.6		

図 43 中学校数学 A 設問別正答率

	中学校 数学 B 出題の趣旨	評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		左から「正答率」「誤答率」「無解答率」を表す。 ※誤答率は、 100-(正答率+無解答率) で算出	
		関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	鈴鹿市	全国(公立)	全国平均との差	鈴鹿市		全国(公立)
1(1)	与えられた図から情報を適切に選択し、空間における図形の位置関係を的確に捉えることができる	○				○			74.6	77.0	△	0.6	0.3	
1(2)	日常的な事象を表した図を観察し、空間における位置に関する情報を適切に読み取ることができる	○				○			92.4	92.8	△	0.7	0.4	
1(3)	事象を理想化・単純化し、その結果を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明することができる	○					○		58.9	60.6	△	13	12.7	
2(1)	与えられた説明の筋道を読み取り、式を適切に変形することで、その説明を完成することができる	○					○		61.5	61.2	○	8.5	9.3	
2(2)	事柄が成り立たない理由を説明する場面で、反例をあげることで、その説明を完成することができる	○					○		64.9	65.4	△	8.3	9	
2(3)	予想された事柄が成り立たないことを判断し、その事柄が成り立たない理由を説明することができる	○					○		44.2	44.2	○	5.1	6.3	
3(1)	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる				○		○		85.8	87.5	△	5.6	5.8	
3(2)	事象を理想化・単純化して問題解決した結果を解釈し、数量の関係を数学的に説明することができる	○					○		59.4	62.3	△	32.9	30.1	
4(1)	図形の性質を、構想を立てて証明することができる	○					○		35.4	39.4	▲	23.7	22.5	
4(2)	付加された条件の下で、証明を振り返って考え、事柄を用いることができる	○					○		20.1	23.3	▲	24.8	25.8	
5(1)	ある場合の得点を樹形図を利用して求めることで、与えられた情報を分類整理することができる	○					○		77.9	79.7	△	4.8	4.8	
5(2)	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる	○					○		30.0	32.1	△	6.8	7.3	
6(1)	与えられたグラフを、事象に即して解釈することができる	○					○		57.8	62.7	▲	9.7	9	
6(2)	グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を改善することができる	○					○		77.4	79.8	△	2.9	2.5	
6(3)	グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を改善して問題を解決する方法を説明することができる	○					○		24.8	29.9	▲	17.2	17.5	

※全国平均との差 ▲<-3≦△<0≦○<+3≦◎

図 44 中学校数学 B 設問別正答率

(2) 中学校数学に関する質問紙調査の結果

＜生徒質問紙調査＞

- 「数学ができるようになりたい」と回答した生徒の割合は 92.3%と高いが、「数学の勉強は好き」と回答した生徒の割合は、54.6%と低い。また、「数学の授業で学習したことが、将来、社会に出たときに役に立つ」と回答した生徒の割合も、69.5%と低い。しかも、昨年度より、数値が下がっている。(表 23)
- 「数学の学習に対する意欲・態度」に関するどの質問も、全国平均を上回っているが、「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」と回答した生徒の割合が 43.3%と低い。(表 24)
- 生徒の「調査問題の解答状況」に関する質問において、「最後まで解答を書こうと努力した」と回答した生徒の割合が昨年を 17.1 ポイント上回るとともに、全国平均を 2.1 ポイント上回っている。(表 25)
- 解答時間が足りている生徒の割合が昨年度に比べ、大きく上昇している。(表 25)

＜学校質問紙調査＞

- 「数学の指導方法」について、「補充的な学習の指導」「発展的な学習の指導」とともに、行っていると回答した学校の割合は、70%と低くないが、「補充的な学習の指導」については、全国平均を大きく下回っている。(表 26)
- 「計算問題などの反復練習をする授業」の実施については、昨年の 100%から 80%に低下し、全国平均を大きく下回っている。(表 68)

生徒質問紙

表 23 生徒の「数学の学習に対する関心」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿 市	H26 鈴鹿 市	前年 度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
62	数学の勉強は好きですか	57.4	54.6	↓	56.6	△
63	数学の勉強は大切だと思いますか	80.5	78.6	↓	82.1	▲
64	数学の授業の内容はよく分かりますか	75.1	72.4	↓	71.5	○
65	数学ができるようになりたいと思いますか	91.0	92.3	↑	91.3	○
68	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	70.9	69.5	↓	71.4	△

※全国平均との差 ▲<-3≦△<0≦○<+3≦◎

表 24 生徒の「数学の学習に対する意欲・態度」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
66	数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	69.9	73.3	↑	70.3	◎
67	数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	41.3	43.3	↑	40.9	○
69	数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	71.2	69.2	↓	67.4	○
70	数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか	71.7	73.2	↑	70.0	◎
71	数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	83.5	84.6	↑	80.0	◎

※全国平均との差 ▲<-3≦△<0≦○<+3≦◎

表 25 生徒の「調査問題（数学）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
72	言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか	42.7	59.8	↑	57.7	○
73	解答時間は十分でしたか（数学A） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	82.1	91.0	↑	90.9	○
74	解答時間は十分でしたか（数学B） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	54.4	76.9	↑	77.7	△

※全国平均との差 ▲<-3≦△<0≦○<+3≦◎

学校質問紙

表 26 「数学の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
65	前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	70.0	70.0	—	87.6	▲
66	前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	50.0	70.0	↑	61.3	◎
67	前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	40.0	60.0	↑	60.8	△
68	前年度までに、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか	100.0	80.0	↓	95.8	▲

※全国平均との差 ▲<-3≦△<0≦○<+3≦◎

4 学力と関係が見られる項目についての質問紙調査結果

国立教育政策研究所は、平成25年度全国学力・学習状況調査の結果について、教科に関する調査と質問紙調査のクロス集計等を行い、学校の指導状況と学力の関係などを分析した結果、以下の指導・活動を積極的に行った学校ほど、教科（特にB問題（活用）の記述問題）の平均正答率が高い傾向が見られることがわかってきた。

- **見通し・振り返り学習活動**
 - ・授業の冒頭で（めあて・ねらい）を示す活動
 - ・授業の最後に学習したことを振り返る活動
- **言語活動や総合的な学習の時間**
 - ・学級やグループで話し合う活動
 - ・探究活動（自分で課題を立てて、調べたことを発表するなどの学習活動）
 - ・[国語]調べたことなどを読み手に伝わるように書く
 - 意見の根拠として取り上げる資料が適切か考える
 - [算数]なぜこの式に表したのかを考える
 - [数学]2つの数量の関係を表、式、グラフを使って考える

また、平成26年度全国学力・学習状況調査の結果から、以下の指導・活動を積極的に行った学校ほど、教科の平均正答率が高い傾向が見られることが、国立教育政策研究所より報告されている。

- **指導方法・学習規律**
 - ・学習規律の維持徹底
 - ・学習方法に関する指導
 - ・学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与える
 - ・本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導する
- **国語科、算数・数学科の指導方法**
 - ・発展的な学習の指導
 - ・国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業、書く習慣を付ける授業、様々な文章を読む習慣を付ける授業
 - ・算数・数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業
- **言語活動**
 - ・各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付ける
 - ・様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導
 - ・発言や活動の時間を確保した授業
 - ・学級やグループで話し合う活動
 - ・資料を使って発表ができる指導
 - ・自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導
- **総合的な学習の時間**
 - ・総合的な学習の時間における探究活動
- **家庭学習**
 - ・調べたり文章を書いたりする宿題を与える
- **研修**
 - ・教職員が、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映

そこで、鈴鹿市の質問紙調査の結果を次の4つの観点で整理した。

- 【学びの質】（指導方法、学習規律、言語活動など）
- 【探究的な学習】（総合的な学習の時間など）
- 【家庭学習】
- 【研修】

学びの質

小学校

<児童質問紙>

- 「授業のはじめの目標」と「授業の最後の振り返り」、「発表する機会」、「話し合う活動」のどれも、昨年よりも肯定的回答の割合が上昇している。（表 27）
- 「授業のはじめの目標」、「授業の最後の振り返り」と「話し合う活動」については、全国平均を下回っている。また、今年度新規に加わった質問「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすること」への肯定的回答の割合は、65.8%と低い。（表 27）

<学校質問紙>

- 「授業のはじめの目標」と「授業の最後の振り返り」を取り入れたと回答した学校の割合は、それぞれ96.7%、80.0%と数値は低くないが、児童質問紙からわかる児童の「目標」「振り返り」に対する認識と差がある。また、全国平均を下回っている。（表 28）
- 「指導方法」に関するどの質問においても、「行っている」と肯定的に回答する学校の割合が高い。（表 28）
- 今年度より、言語活動に関する質問が増えた。全国平均を下回るものもあるが、「各教科等における言語活動の位置付け」について、取り組んでいると回答した学校の割合は、80%を超えている。（表 28）

中学校

<生徒質問紙>

- 「授業のはじめの目標」と「授業の最後の振り返り」について、生徒の肯定的回答の割合が昨年より上昇しているものの、それぞれ67.8%、54.5%と低い。しかも「授業のはじめの目標」は全国平均から3.7%下回っている。(表 29)
- 「発表する機会」「話し合う活動」を行っているとは回答している生徒の割合は、80%を越え、全国平均を上回っている。(表 29)
- 今年度新規に加わった質問「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすること」への肯定的回答の割合は、66.2%と低い。(表 29)

<学校質問紙>

- 「授業のはじめの目標」と「授業の最後の振り返り」を取り入れたと回答した学校の割合は、どちらも100%であり、生徒の意識とかなりのずれがある。(表 30)
- 「学級全員で取組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた」と回答している学校の割合が、60%と低い。(表 30)
- 今年度より、言語活動に関する質問が増えた。その中で、「国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体で取組んでいる」と回答した学校の割合は、50%と低く、全国平均を35.4ポイント下回っている。(表 30)

小学校

児童質問紙

表 27 児童の「学習状況」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成 26 年度質問紙調査を掲載。平成 25 年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿 市	H26 鈴鹿 市	前年 度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
44	5年生までに受けた授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか	73.6	77.0	↑	82.0	▲
45	5年生までに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	65.0	69.4	↑	71.9	△
42	5年生までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか	82.0	84.4	↑	83.7	○
43	5年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか	74.5	84.7	↑	84.9	△
48	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか		65.8		65.9	△

※全国平均との差 ▲<-3≦△<0≦○<+3≦◎

学校質問紙

表 28 「指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成 26 年度質問紙調査を掲載。平成 25 年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿 市	H26 鈴鹿 市	前年 度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
28	前年度までに、授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童に示す活動を計画的に取り入れましたか	80.0	96.7	↑	96.9	△
29	前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか	60.0	80.0	↑	91.6	▲
31	前年度までに、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか	96.6	96.6	—	93.9	○
32	前年度までに、児童の発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか	100.0	96.7	↓	96.9	△
35	前年度までに、学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業の開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底しましたか	100.0	96.7	↓	96.2	○
36	前年度までに、学習方法（適切にノートをとる、テストの間違いを振り返って学習するなど）に関する指導をしましたか	100.0	96.7	↓	85.6	◎
37	前年度までに、学級全員で取組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	90.3	90.0	↓	91.0	△

38	前年度までに、学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか	100.0	96.7	↓	95.4	○
30	前年度までに、各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けていましたか		83.4		90.2	▲
95	言語活動に重点を置いた指導計画を作成していますか	66.7	83.3	↑	88.2	▲
96	学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか		96.7		88.2	◎
97	言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか		83.4		90.3	▲

※全国平均との差 ▲<-3≦△<0≦○<+3≦◎

中学校

生徒質問紙

表 29 生徒の「学習状況」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿 市	H26 鈴鹿 市	前年 度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
	※質問文は、平成 26 年度質問紙調査を掲載。平成 25 年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。					
44	1,2年生のときに受けた授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか	65.4	67.8	↑	71.5	▲
45	1,2年生のときに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	51.9	54.5	↑	53.3	○
42	1,2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか	88.0	87.4	↓	81.1	◎
43	1,2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか	68.1	82.9	↑	75.3	◎
48	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか		66.2		61.9	◎

※全国平均との差 ▲<-3≦△<0≦○<+3≦◎

学校質問紙

表 30 児童の「指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿 市	H26 鈴鹿 市	前年 度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
	※質問文は、平成 26 年度質問紙調査を掲載。平成 25 年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。					
28	前年度までに、授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を生徒に示す活動を計画的に取り入れましたか	90.0	100.0	↑	94.0	◎
29	前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか	70.0	100.0	↑	89.2	◎
31	前年度までに、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか	100.0	80.0	↓	91.1	▲

32	前年度までに、生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか	90.0	80.0	↓	93.3	▲
35	前年度までに、学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業の開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底しましたか	100.0	90.0	↓	96.6	▲
36	前年度までに、学習方法（適切にノートをとる、テストの間違いを振り返って学習するなど）に関する指導をしましたか	100.0	100.0	—	97.1	○
37	前年度までに、学級全員で取組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	70.0	60.0	↓	82.7	▲
38	前年度までに、学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか	80.0	80.0	—	88.2	▲
30	前年度までに、各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けていましたか		80.0		84.9	▲
93	言語活動に重点を置いた指導計画を作成していますか	80.0	80.0	—	80.5	△
94	学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか		80.0		75.9	◎
95	言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取組んでいますか		50.0		85.4	▲

※全国平均との差 ▲<-3≦△<0≦○<+3≦◎

探究的な学習

小学校

<児童質問紙>

- 『総合的な学習の時間』の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つ」と回答した児童の割合は、86.1%と高く、昨年度を上回り、全国平均も上回っている。

(表 31)

- 『総合的な学習の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と回答した児童の割合が、昨年よりは高くなったが、52.8%と低い。また、全国平均を 11 ポイント下回っている。(表 31)
- 「本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていた」と回答した生徒の割合は、74.1%で、全国平均を 3.2 ポイント下回ってはいるものの、昨年比べ、大きく上昇している。(表 31)

<学校質問紙>

- 探究的な学習を進めるにあたって必要な指導となる「課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導」「本やインターネットなどを使った資料の調べ方の指導」「資料を使った発表の指導」「調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書く指導」「学校図書館を活用した授業」「情報通信技術を活用した協働学習、課題発見・解決型の学習指導」を行ったと回答した学校の割合は、どれも全国平均を下回っている。(表 32)

中学校

<生徒質問紙>

- 『総合的な学習の時間』の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つ」と回答した生徒の割合は、昨年を 1.2 ポイント下回り、68.8%と低い。(表 33)

- 『総合的な学習の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」「本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていた」と回答した生徒の割合は、どちらも昨年よりは上昇したものの、40%台と低い。(表 33)

<学校質問紙>

- 探究的な学習を進めるにあたって必要な指導となる「課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導」「本やインターネットなどを使った資料の調べ方の指導」「資料を使った発表の指導」「調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書く指導」「学校図書館を活用した授業」「情報通信技術を活用した協働学習、課題発見・解決型の学習指導」を行ったと回答した学校の割合は低く、どれも全国平均を大きく下回っている。(表 34)

小学校

児童質問紙

表 31 児童の「総合的な学習の時間等」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成 26 年度質問紙調査を掲載。平成 25 年度とわずかに 異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿 市	H26 鈴鹿 市	前年 度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
39	「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか	79.7	86.1	↑	85.0	○
40	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	43.8	52.8	↑	63.8	▲
41	5年生までに受けた授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていたと思いますか	43.5	74.1	↑	77.3	▲

※全国平均との差 ▲<-3≤△<0≤○<+3≤◎

学校質問紙

表 32 「総合的な学習の時間、学び方の指導等」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成 26 年度質問紙調査を掲載。平成 25 年度とわずかに 異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿 市	H26 鈴鹿 市	前年 度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
42	前年度までに、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか	66.6	70.0	↑	79.7	▲
39	前年度までに、本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導しましたか	90.0	80.0	↓	91.0	▲
40	前年度までに、資料を使って発表ができるよう指導しましたか	70.0	66.7	↓	85.8	▲
41	前年度までに、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか	90.0	83.3	↓	90.6	▲
24	前年度に、学校図書館を活用した授業を計画的に行いましたか ※学期に数回程度以上実施	83.3	80.0	↓	80.5	△
44	前年度までに、コンピュータ等の情報通信技術を活用して、子供同士が教え合い学び合う学習(協働学習)や課題発見・解決型の学習指導を行いましたか	33.3	43.3	↑	64.1	▲

※全国平均との差 ▲<-3≤△<0≤○<+3≤◎

中学校

生徒質問紙

表 33 生徒の「総合的な学習の時間等」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成 26 年度質問紙調査を掲載。平成 25 年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿 市	H26 鈴鹿 市	前年 度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
39	「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか	70.0	68.8	↓	71.2	△
40	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	42.5	44.5	↑	54.8	▲
41	1,2年生のときに受けた授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていたと思いますか	27.1	46.9	↑	46.5	○

※全国平均との差 ▲<-3≤△<0≤○<+3≤◎

学校質問紙

表 34 「総合的な学習の時間、学び方の指導等」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成 26 年度質問紙調査を掲載。平成 25 年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿 市	H26 鈴鹿 市	前年 度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均 との差
42	前年度までに、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか	60.0	40.0	↓	79.6	▲
39	前年度までに、本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導しましたか	40.0	40.0	—	78.2	▲
40	前年度までに、資料を使って発表ができるよう指導しましたか	60.0	40.0	↓	78.1	▲
41	前年度までに、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか	60.0	50.0	↓	86.5	▲
24	前年度に、学校図書館を活用した授業を計画的に行いましたか ※学期に数回程度以上実施	20.0	40.0	↑	79.6	▲
44	前年度までに、コンピュータ等の情報通信技術を活用して、子供同士が教え合い学び合う学習(協働学習)や課題発見・解決型の学習指導を行いましたか	40.0	10.0	↓	51.2	▲

※全国平均との差 ▲<-3≤△<0≤○<+3≤◎

家庭学習

小学校

<児童質問紙>

- 小学校6年生の家庭での学習時間について、「平日30分以上」に該当する児童の割合が86.3%、「休日1時間以上」に該当する児童の割合が49.0%と低い。これらは、全国平均を下回っている。一方、「塾で勉強をしている」と回答した児童は約半数おり、全国平均を3ポイント以上上回っている。(表35)
- 「宿題をする」児童の割合は、97.1%と高いが、「自分で計画を立てて勉強する」「授業の予習、復習をする」といった、自主的な学習については、どれも数値が低い。(表35)

<学校質問紙>

- 国語、算数ともに、「家庭学習の課題を与え、与えた課題についての評価・指導を行った」と回答した学校は、100%である。また、校内の教職員で課題学習の与え方について共通理解を図ったり、保護者に対して、児童の家庭学習を促す働きかけや児童に家庭学習の方法等の指導をしている学校がほとんどである。(表36)
- 「家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりする宿題を与えた」と回答した学校の割合が、76.7%と、他の質問より、大きく数値が低くなっている。(表36)

中学校

<生徒質問紙>

- 中学校3年生の家庭での学習時間について、「平日1時間以上」に該当する生徒の割合が60.7%と、昨年の結果や全国平均を3ポイント以上下回り、低くなっている。「休日2時間以上」に該当する生徒の割合が28.1%と低く、全国平均と比べると、12.2ポイント下回る。一方、「塾で勉強をしている」と回答した生徒は、64.8%で、全国平均を3ポイント以上上回っている。(表37)
- 「宿題をする」生徒の割合は、87.7%であるが、「自分で計画を立てて勉強する」「授業の予習、復習をする」といった、自主的な学習については、どれも数値50%に満たず、低い。(表37)

<学校質問紙>

- 国語、数学ともに、「家庭学習の課題を与えた」と回答した学校は、100%であるが、「与えた宿題についての評価・指導を行った」と回答した学校は、100%ではない。(表38)
- 小学校とは逆に、校内の教職員で課題学習の与え方について共通理解を図ったり、保護者に対して、生徒の家庭学習を促す働きかけや生徒に家庭学習の方法等の指導をしている学校の割合が60%~70%と低く、全国平均との差も大きい。(表38)
- 「家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりする宿題を与えた」と回答した学校の割合が、50%と最も低く、全国平均との差も大きい。(表38)

小学校

児童質問紙

表 35 児童の「家庭学習」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成 26 年度質問紙調査を掲載。平成 25 年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿 市	H26 鈴鹿 市	前年 度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均と の差
14	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む） （※30 分以上）	87.4	86.3	↓	87.2	△
15	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む） （※1 時間以上）	46.6	49.0	↑	55.9	▲
16	学習塾（家庭教師の先生に教わっている場合も含む）で勉強をしていますか	53.6	51.1	↓	47.7	◎
21	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	57.9	61.2	↑	61.0	○
22	家で学校の宿題をしていますか	97.3	97.1	↓	96.5	○
23	家で学校の授業の予習をしていますか	43.3	45.9	↑	43.2	○
24	家で学校の授業の復習をしていますか	48.3	52.8	↑	54.0	△

※全国平均との差 ▲<-3≦△<0≦○<+3 ≡◎

学校質問紙

表 36 「家庭学習の指導」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成 26 年度質問紙調査を掲載。平成 25 年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿 市	H26 鈴鹿 市	前年 度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均と の差
80	前年度までに、国語の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか	100.0	100.0	—	99.4	○
81	前年度までに、国語の指導として、児童に与えた家庭学習の課題（長期休業中の課題を除く）についての評価・指導を行いましたか	100.0	100.0	—	97.8	○
82	前年度までに、算数の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか	100.0	100.0	—	99.5	○
83	前年度までに、算数の指導として、児童に与えた家庭学習の課題（長期休業中の課題を除く）についての評価・指導を行いましたか	100.0	100.0	—	98.0	○
84	前年度までに、保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか （国語／算数共通）	国 100.0 算 100.0	100.0	↑	95.9	◎

85	家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか（国語／算数共通）	国 93.4 算 93.4	96.7	↑	85.4	◎
86	家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか（国語／算数共通）	80.0	76.7	↓	77.8	△
87	家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしましたか（国語／算数共通）	93.3	90.0	↓	88.2	○

※全国平均との差 ▲<-3≤△<0≤○<+3≤◎

中学校

生徒質問紙

表 37 生徒の「家庭学習の指導」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿 市	H26 鈴鹿 市	前年 度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均と の差
	※質問文は、平成 26 年度質問紙調査を掲載。平成 25 年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。					
14	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む）（※1 時間以上）	64.0	60.7	↓	67.9	▲
15	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む）（※2 時間以上）	29.2	28.1	↓	40.3	▲
16	学習塾（家庭教師の先生に教わっている場合も含む）で勉強をしていますか	65.7	64.8	↓	60.3	◎
21	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	44.7	48.9	↑	46.6	○
22	家で学校の宿題をしていますか	86.8	87.7	↑	88.2	△
23	家で学校の授業の予習をしていますか	30.1	31.9	↑	34.2	△
24	家で学校の授業の復習をしていますか	44.6	44.9	↑	50.4	▲

※全国平均との差 ▲<-3≤△<0≤○<+3≤◎

学校質問紙

表 38 「家庭学習の指導」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿 市	H26 鈴鹿 市	前年 度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均と の差
	※質問文は、平成 26 年度質問紙調査を掲載。平成 25 年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。					
78	前年度までに、国語の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか	90.0	100.0	↑	90.9	◎
79	前年度までに、国語の指導として、生徒に与えた家庭学習の課題（長期休業中の課題を除く）についての評価・指導を行いましたか	90.0	80.0	↓	93.8	▲

80	前年度までに、数学の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか	80.0	100.0	↑	93.3	◎
81	前年度までに、数学の指導として、生徒に与えた家庭学習の課題(長期休業中の課題を除く)についての評価・指導を行いましたか	80.0	90.0	↑	93.9	▲
82	前年度までに、保護者に対して生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか(国語/数学 共通)	国 60.0 算 80.0	70.0	—	85.4	▲
83	前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか(国語/数学 共通)	国 90.0 数 80.0	60.0	↓	76.9	▲
84	前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか(国語/数学 共通)	50.0	50.0	—	64.2	▲
85	前年度までに、家庭学習の取組として、生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか(国語/数学 共通)	80.0	60.0	↓	84.8	▲

※全国平均との差 ▲<-3≤△<0≤○<+3≤◎

研修

小学校

<学校質問紙>

○小学校において、研修に関するどの質問についても、肯定的回答の割合は高く、学校内外で積極的に研修し、組織的に取り組んでいる学校の割合が高い。全国学力・学習状況調査の活用についても肯定的回答の割合が 96.7%と高い。(表 39)

中学校

<学校質問紙>

○中学校においても、研修に関するどの質問についても、肯定的回答の割合は高く、学校内外で積極的に研修し、組織的に取り組んでいる学校の割合が高い。また、全国学力・学習状況調査の活用についても、肯定的回答の割合が 100%と高い。(表 40)

小学校

学校質問紙

表 39 「学校の研修等」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年 度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均と の差
47	平成 25 年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行いましたか	93.3	96.7	↑	97.1	△
48	平成 25 年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	100.0	96.7	↓	93.6	◎
88	学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか	100.0	90.0	↓	92.5	△
89	模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか	96.7	93.4	↓	94.9	△
90	教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか	80.0	83.3	↑	96.2	▲
92	教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか	93.3	96.7	↑	95.5	○
93	学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っていますか	93.4	96.7	↑	95.1	○

98	学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組に当たっていますか	96.7	100.0	↑	98.6	○
99	学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有していますか	96.7	100.0	↑	98.2	○
100	学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか		96.7		97.3	△
101	あなた(校長)は、校内の授業をどの程度見て回っていますか ※週に2～3日程度以上	93.3	96.6	↑	91.6	◎

※全国平均との差 ▲<-3≤△<0≤○<+3≤◎

中学校

学校質問紙

表 40 「学校の研修等」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H26 質問 番号	質 問 ※質問文は、平成26年度質問紙調査を掲載。平成25年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	前年 度 比較	H26 全国 (公立)	H26 全国 平均と の差
47	平成25年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行いましたか	90.0	100.0	↑	95.3	◎
48	平成25年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	80.0	100.0	↑	90.4	◎
86	学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか	100.0	90.0	↓	84.8	◎
87	模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか	100.0	100.0	—	86.7	◎
88	教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか	80.0	80.0	—	92.7	▲
90	教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか	70.0	90.0	↑	90.8	△
91	学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っていますか	100.0	90.0	↓	93.6	▲
96	学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組に当たっていますか	100.0	90.0	↓	97.3	▲
97	学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有していますか	90.0	100.0	↑	97.2	○
98	学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか		100.0		95.8	◎
99	あなた(校長)は、校内の授業をどの程度見て回っていますか ※週に2～3日程度以上	100.0	80.0	↓	79.3	○

※全国平均との差 ▲<-3≤△<0≤○<+3≤◎